

シ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村惣代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提供セシ乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナリ云々ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ幸ニ契約上ヨリ生スル者ナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスル中ハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニテ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人ヲラシメントスルハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ナ容レサル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一已ノ專權ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セシメテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ

現ニ耕作ナシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀アラレシトテ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲ケ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲シ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ仮ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原告ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ即チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人

タルコ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ寂  
麥ヲ辨セサル偏理論ナリトセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マ  
ニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄  
小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナ  
レハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルコヲ証  
明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルコヲ証  
スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被  
上告者ノ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡  
セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルコヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中  
ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルコヲ証スル効力ナシ乙第  
六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ  
十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヨリ十一年度以  
降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサ  
ル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラシテ起訴者タル上告人ハ己レノ  
代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キヲ相當ナ  
リトス

又上告人ハ上告者外証據物ヲ掲ケ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タン

ト欲スレモ其甲號証ト上告者外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地  
取戻ノ訴訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘ヲ上申セシ迄ニテ舉行セサリシ  
コハ被上告者外証ニ於ケルカ如シ又仮リコ甲號証カ上告者外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲  
號証ヲ斥ケ者外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルチ以テ被上告人チ目シテ小作  
人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ者外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非レハ只十一年度  
以降藤本甚八コ於テ小作セリト云フ甲第一號第二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル手然  
レハ仮リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ  
十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴  
者タル上告人ニ於テ証明ス可キヲ相當ナリトス其故何トナレハ人コ物ヲ貸シタリト訴フ  
ルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラズ否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ  
之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス况ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シ  
テ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコハ地方ノ習慣ニ據テ争フ  
可カラズ又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコヲ明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告  
ナリト思惟ス  
仍テ相當ノ判決アラシコヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度被上告者カ小作シ來リタルコハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ

而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノ  
 ミナラス始審裁判狀中被告(被上)カ中立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣  
 代ニテ取立原告(告上)へ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地  
 主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者へ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナ  
 リ自分ト小作人ナリト被上告者於テ自テ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第  
 七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ  
 被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ  
 上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ  
 其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總  
 代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アル  
 モ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納  
 スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限  
 上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代へ返戻ナシタリ  
 ト云フハ甚ク謂レナキモノナリ又上告者外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者  
 等ヨリ唐津區裁判所へ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戸數ニ  
 割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中惣作ニ歸シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所へ  
 差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々トア  
 リ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫レ  
 前ニハ村中ノ惣作ニ飯シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其中述  
 ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川禮  
 太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其事  
 實モニナカラ信ヲ措キカタクモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年迄被上  
 告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被上  
 告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主ナ  
 ル上告者へ返戻セントノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以テ  
 本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ條約セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判所  
 ニ於テハ「該地所チ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二  
 號証ニ於テ判然タルノミナラス被告(告上)カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 (被上)カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第七十四號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判  
 所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

長崎縣肥前國東松浦郡山田  
村平民

上告人

櫻 井 貫 一

東京府京橋區南紺屋町十一番地  
寄留埼玉縣士族

右代言人

高 橋 一 勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村  
平民

被上告人

佐 々 木 丈 平

東京府神田區中猿樂町二番  
地平民

右代言人

大 井 憲 太 郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米テ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故ニ  
村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ該  
地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅テ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來

庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
上告乙第三號証及乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ綿連トシテ上告者ノ小作人タ  
リ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅引帳簿ニシテ其前記ヲ上  
告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ  
詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告  
人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及乙第三號証  
モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號  
ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附テ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明  
治十年前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告  
甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ  
以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カ  
ナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名  
ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレモ個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ  
差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ  
一斤ニ付凡六畝步宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル  
証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第一二証ニ「村民并  
ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ニ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極  
メ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非ス

ヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別チ以テ依頼スル程ノモノナルチ地主ノ承諾モ無ニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムヘキ道理アルコトナシ以上辨明スル如ク被上告者カ提供スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナシ又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキコト非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所チ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提供セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナシ云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニソ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人ヲラシメントスルハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ

專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑チ容レサル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人ヘ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セスシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ナシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルコト付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレシテ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲ケ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲ケ以テ十四年度以降小作人タルコトヲ確証シ得サル以上ハ仮ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附チ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米チ地主ニ渡スノ慣習ナルコトハ本訴原ノ明認セル所ナリ而シテ其村惣代ナルモノハ即チ上告人ヲ代理者ニシテ小作米ヲ取立

等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張セ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ寂麥ヲ辨セサル偏理論ナリトセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村惣代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタレハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証明スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調制ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証明スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セザル反証ナキニモ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レノ代理者タル村惣代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キキ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘チ上申セシ迄ニテ舉行セサリシ一ハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又仮リニ甲號証カ上告番外証ノ二モ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚八ニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ仮リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キキ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラヌト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス况ソヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ更ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村惣代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ

右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アランコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ總代ニテ取立原告(告上)ヘ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ヘ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルコト足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ證明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村惣代ヘ返戻ナシ

タリト云フハ甚ダ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ヘ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戸數ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ歸シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所ヘ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議テ遂ケ總作ニ議決シ」云々トアリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫レ前ニハ村中ノ總作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川禮太郎ノ保証アルモ其村中總作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其事實モ二ナカラ信テ措キカマキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年迄迄被上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文弁明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主ナル上告者ヘ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判所ニ於テハ「該地所チ村總代人ヘ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告(告上)カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告(被上)カ小作者タルヲ證明スヘキモノナシ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ

但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第七十五號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判

所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
明治十五年三月三十日申渡)

長崎縣肥前國東松浦郡山田

村平民

櫻 井 貫 一

東京府京橋區南紺屋町十一

番地寄留埼玉縣士族

高 橋 一 勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村

平民

佐 伯 儀 三 治

東京府神田區中猿樂町二番

地平民

大 井 憲 太 郎

被上告人

右代言人

上告ノ要領

右代言人

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故ニ  
 村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ該  
 地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第貳號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人  
 タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者へ差入タル小作米ノ高  
 ナ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者へ差出シタル書面ニシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者へ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告番外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳へ呈出シタル論辨書中「  
 明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高コト小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明



カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレモ個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ニ差出タル答辨書并ニ上告番外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二線ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヨ地主ノ承諾モナキニ村民ガ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ニ小作セシムヘキ道理アルコトナシ以上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米チ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村惣代人ユ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告ガ提供セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ尽サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスル片ハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ナシテ代テ小作人ヲシメントスル片ハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米チ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レサル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人ニ轉小作チナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカチ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作チシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルコ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレシコトヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルコトヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ賃租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルコトハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ即チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人

タルコト明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ被麥ヲ辨セサル偏理論ナリトセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村惣代ヨリ借受タルヲ以テ村惣代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限りハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルコトヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルコトヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一並ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルコトヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ着ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ着ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ據ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レノ代理者タル村惣代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キヲ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タン  
ト欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地  
取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘チ上申セシ迄ニテ舉行ヒザリシ  
コトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲  
號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人チ目シテ小作  
人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度  
以降藤本甚八ニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀クント欲スルノ精神ナル乎然  
レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シ  
テ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別  
ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キチ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シ  
タリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持  
主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス况ンヤ本訴ノ小作地ハ世間  
普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシ  
ハ地方ノ習慣ニ據テ争フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシヲ明認セルニ於  
テオヤ  
右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告  
ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラントナリテ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナ  
リ而シテ其小作權ハ當時村惣代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀ザル  
ノミナラス始審裁判狀中被告<sup>被上</sup>カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ  
惣代ニテ取立原告<sup>上</sup>ヘ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然  
地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ヘ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主  
ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號  
第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉川禮太郎等ニ於  
テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シ  
テ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者  
ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村惣代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村  
惣代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論ア  
ルト上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上  
納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分  
限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地チ村總代ヘ返戻ナシタ  
リト云フハ甚ダ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告  
者等ヨリ唐津區裁判所ヘ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戸數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中惣作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其中  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信テ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上交辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカヲサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ該地所チ村惣代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス」  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第七十六號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文<sup>明治十四年九月三日上告</sup>  
<sup>明治十五年三月三十日申渡</sup>

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留埼玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

田中作平

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヨ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高  
 ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中  
 「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証「モ」私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ナリテ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明  
 カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九  
 名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレバ個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳  
 へ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割  
 リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸ス  
 ル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民  
 并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取  
 極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非  
 スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾  
 モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ奥書係証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署  
 スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス  
 右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノ  
 ナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ  
 於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名  
 ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一  
 號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ  
 頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ  
 地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ  
 此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一  
 方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニソ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作  
 人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地  
 ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令  
 ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限リハ夫レカ  
 爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ  
 專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自  
 ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

カル所ナリ然ルコ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキコ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物コテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人コ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所コ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告コ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等コ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領コ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ寂麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシコ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノコテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者チ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルコ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ擧行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米テ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルコト足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戸數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被告ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ証保アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルハ上文辨明ノ如ク被告上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被告上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルモ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>」カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
<sup>被上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク「云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルヲ左ノ如シ

判決

被告上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被告上告者ノ負擔タルヘシ

第七十七號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

上告人

櫻 井 貫 一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留埼玉縣士族

右代言人

高 橋 一 勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被告上告人

吉 田 東 藏

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大 井 憲 太郎

上告ノ要領

被告上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシヲナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルヲハ曩ニ上告者ト被告居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルヲハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被告上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルチ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人エ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルチ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人タラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルコト得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラズ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

ナル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人ニ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物コト如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告人第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレシテ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケテ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ慣習ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘チ上申セシ迄ニテ舉行セザリシヲハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセシカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚八ニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラカレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコト明認セルニ於テオヤ右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラノコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告<sup>(被上)</sup>カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告<sup>(上)</sup>ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村東山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ飯シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ証保アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカマキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>」カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第七十八號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

上告人

櫻 井 貫 一

右代言人

高 橋 一 勝

被上告人

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民  
川 上 喜 四 郎

右代言人

東京府神田區中猿樂町二番地平民  
大 井 憲 太 郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戶數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証「村民并ニ貴殿方ノ依頼ヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキコト非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニソ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人タラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告人第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ヲ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者チ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一并ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ擧行セザリシヲハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一第二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アテシテ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作ヲ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米テ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村東山下武吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルコト足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルニ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被告ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其中  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ証保アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ眞印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカダキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被告上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被告上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被告上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ

但シ訴訟入費ハ被告上告者ノ負擔タルヘシ

第七十九號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

長崎縣肥前國東松浦郡山田村平民

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一  
 番地寄留埼玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被告上告人

片峯幸七

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被告上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被告居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被告上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辯書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝步宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルチ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキコト非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ證明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルコト得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑フ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレソコヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ僞ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルコトヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルコトハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケテ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルコト明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス態マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ菽麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ態マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルコトヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルコトヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者チ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルコトヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キヲ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀ダント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セサリシトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀ダント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キヲ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナカニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作ヲ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラズ始審裁判狀中被告<sup>被上</sup>カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄有習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告<sup>上</sup>ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルコト足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタクモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村総代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>」カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留堀玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

脇山幸平

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレヒ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコト在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非ズヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルチ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ奥書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキコト非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米チ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニソ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ルル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルコ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人ニ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルコト非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ寂麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタレハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルコト過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須テク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレト其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレト當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ争フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコト明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナリニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルニ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戸數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 ノ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其中  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モ二十カラ信ヲ措キカタクモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十一年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>」カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十一號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

長崎縣肥前國東松浦郡山田村平民

上告人

櫻井貫一

右代言人

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留堀玉縣士族  
 高橋一勝

被上告人

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民  
 岡崎元次郎

右代言人

東京府神田區中猿樂町二番地平民  
 大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコト在勤庄屋ノ所有ニノ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者へ差入タル小作米ノ高  
 ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者へ差出シタル書面ニシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者へ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳へ呈出シタル論辨書中  
 「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証「モ」私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ナリテ以上掲列ノ證據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明  
 カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九  
 名ニ於テ耕作致シ居ルノ證據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳  
 へ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割  
 リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸ス  
 ル證據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保證ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証「村民  
 并ニ貴殿方ノ依頼ヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取  
 極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保證ヲ爲シタルニ非  
 スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾  
 モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等へ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル證據書ノ與書保證ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署  
 スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス  
 右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル證據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノ  
 ナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ  
 於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名  
 ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告ガ提共セル乙第一  
 號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ證明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ  
 頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ  
 凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ  
 地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ  
 此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一  
 方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作  
 人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地  
 ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令  
 ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ證據ナキ限りハ夫レカ  
 爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ  
 專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自  
 ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物コテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケケリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス態マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一并ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘チ上申セシ迄コテ舉行セザリシヲハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルチ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハコ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キチ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルチ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ

右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アランコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルチ觀サレノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米チ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルチ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシチ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地チ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ツ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ飯シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタクモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ(該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被上告者)カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 (被上告者)カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク「云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十二號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留培玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

脇山與平

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第貳號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告番外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辨書并ニ上告番外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切コ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人タラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑フ容レ

ナル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告人第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヨシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ申請ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタレハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己ノ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄コテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ争フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコト明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルチ觀サレノミナラス始審裁判狀中被告(被上)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米テ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルチ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシチ知ルコト足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ證明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其中  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ與印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モ二十カラ信ヲ措キカタクモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十三號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文<sup>明治十四年九月三日上告</sup>  
<sup>明治十五年三月三十日申渡</sup>

長崎縣肥前國東松浦郡山田村平民

櫻 井 貫 一

上告人

東京府京橋區南紺屋町十一  
 番地寄留埼玉縣土族

高 橋 一 勝

右代言人

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

川 上 治 六

被上告人

東京府神田區中猿樂町二番地平民

大 井 憲 太 郎

右代言人

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレド  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告番外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辨書并ニ上告番外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ證明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルコト確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ任附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルコトハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルコト明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ寂麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルコトヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルコトヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一并ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルコトヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キヲ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレト其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラズ該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレト當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一第二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キヲ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ争フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ右ノ理由ナリニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルコト足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルト上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸コ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其中  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ〔該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク〕云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十四號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

上告人

櫻 井 貫 一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留埼玉縣士族

右代言人

高 橋 一 勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

西 村 五 助

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大 井 憲 太 郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第貳號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ任附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヨ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高  
 ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中  
 「明治十年前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ナリテ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルヲ増々以テ明  
 カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九  
 名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳  
 へ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割  
 リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸ス  
 ル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラヌ上告乙第七號第二証ニ「村民  
 并ニ貴殿方ノ依頼ヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取  
 極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非  
 スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾  
 モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルヲナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署  
 スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス  
 右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルヲ証スヘキモノ  
 ナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ  
 於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名  
 ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一  
 號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ  
 頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ  
 地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ  
 此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一  
 方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作  
 ハタラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地  
 ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令  
 ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ  
 爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ  
 專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自  
 ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラス本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人ニ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物コテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヨシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等夫引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケテ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタレハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラテ起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キヲ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレトモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレトモ當時其議アリシ儘チ上申セシ迄ニテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚八ニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キヲ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラノコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米チ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルニ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸コ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ飯シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其中  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ與印アルハ此保証ハ勿論其  
 事實モ二十カラ信ヲ措キカマキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱シサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>」カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十五號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

長崎縣肥前國東松浦郡山田村平民

櫻 井 貫 一

東京府京橋區南紺屋町十一  
 番地寄留埼玉縣士族

高 橋 一 勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

岡 崎 鹿 助

東京府神田區中猿樂町二番地平民

大 井 憲 太郎

被上告人

右代言人

上告ノ要領

右代言人

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナシ在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課税ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戶數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人タラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノコトヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルコトヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルコトハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルコト明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノコト十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルコトヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルコトヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルコトヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラシ起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キヲ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレト其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレト當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キヲ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルト上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戸數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ與印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルヲハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルヲ左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十六號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

長崎縣肥前國東松浦郡山田村平民

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一  
 番地寄留埜玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

清水辰吉

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシヲ在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルヲハ被上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 未上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルヲハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヨ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヨ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高  
 ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルヲ証ス可キモノナリ而シテ上告番外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中  
 「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ナリテ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルヲ増々以テ明  
 カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九  
 名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレト個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳  
 へ差出タル答辨書并ニ上告番外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割  
 リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸ス  
 ル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民  
 并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取  
 極ノ出入ノ調書指出候上合計ヨ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非  
 スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾  
 モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等へ小作セシムベキ道理アルヲナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署  
 スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス  
 右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルヲ証スヘキモノ  
 ナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ  
 於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヨ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名  
 ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一  
 號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ  
 頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ  
 地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ  
 此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一  
 方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作  
 人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地  
 ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令  
 ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ  
 爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ルル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ  
 專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自  
 ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラス本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人ニ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ證據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者テ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一并ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚八ニ於テ小作セリト云フ甲第一第二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラズ否ラレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラテヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作ヲ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄有習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ飯シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ與印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ〔該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>(上)</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
<sup>(被上)</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ〕云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十七號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文<sup>(明治十四年九月三日上告)</sup>  
<sup>(明治十五年三月三十日申渡)</sup>

長崎縣肥前國東松浦郡山田村平民

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留培玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

佐伯卯吉

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレハ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ被上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者へ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者へ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者へ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳へ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレモ個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳へ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルチ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等へ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ奥書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキコト非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルチ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルコト得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告人第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレシテ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ菽麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一并ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キチ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラレハ其相當ノ持主ニ於テ自カテ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコト明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナリニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラントテ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルチ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米チ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルチ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシチ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルニ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戸數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被告ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被告上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被告上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>(上)</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
<sup>(被上)</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被告上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被告上告者ノ負擔タルヘシ

第八十八號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

上告人

櫻 井 貫 一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留埼玉縣士族

右代言人

高 橋 一 勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被告上告人

近 藤 直 平

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大 井 憲 太 郎

上告ノ要領

被告上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被告上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被告上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヨ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高  
 ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中  
 「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ナ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明  
 カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九  
 名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレモ個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳  
 へ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割  
 リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸ス  
 ル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民  
 并ニ貴殿方ノ依頼ヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取  
 極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非  
 スヤ斯ク地主ト小作人ト相對コト取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾  
 モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署  
 スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス  
 右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノ  
 ナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ  
 於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人エ引渡シ藤本甚八外九名  
 ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一  
 號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ  
 頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ  
 地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ  
 此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルキハ一  
 方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作  
 人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地  
 ヲ他ニ轉小作セシムルコト得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令  
 ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ  
 爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ  
 專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自  
 ヲ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告人第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレソフテ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ菽麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀ダント欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ擧行セザリシヲハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀ダント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ

右ノ理由ナカニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村吏山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ皈シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々トアリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ與印アレハ此保証ハ勿論其事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主ナル上告者ヘ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判所ニ於テハ〔該地所ヲ村總代人ヘ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告<sup>被上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナリ〕云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第八十九號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文<sup>明治十四年九月二日 上告</sup>  
<sup>明治十五年三月二十日 申渡</sup>

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留増玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

清水武吉

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上告者ノ所有ニ歸シタルコトハ爰ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ニシテ被上告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言ヲ以テ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳ヘ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸スル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキコト非ス右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人ニ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ證明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルキハ一方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカヲ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確認シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ救麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一併ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラク起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレト其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレト當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚八ニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ナキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシト明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナカニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソクテ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作ヲ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村東山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルコト足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルト上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸ニ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ與印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ(該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告(上)カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 (被上)カ小作者タルヲ証明スヘキモノナク(云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第九十號

○小作淹滯米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留埼玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

吉田良吾

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコト在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ曩ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人

タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヨ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ差入タル小作米ノ高  
 ヲ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者ヘ差出シタル書面ヨシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者ヘ差入タルヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルヲ証ス可キモノナリ而シテ上告者外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳ヘ呈出シタル論辨書中  
 「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ナリテ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルヲ増々以テ明  
 カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九  
 名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレモ個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳  
 へ差出タル答辨書并ニ上告者外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割  
 リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸ス  
 ル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保証ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民  
 并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取  
 極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保証ヲ爲シタルニ非  
 スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾  
 モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等ヘ小作セシムベキ道理アルヲナシ以  
 上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保証ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署  
 スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキニ非ス  
 右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルヲ証スヘキモノ  
 ナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ  
 於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人エ引渡シ藤本甚八外九名  
 ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一  
 號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ証明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ  
 頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ  
 凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ  
 地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ  
 此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權義ヲ得或ハ免レントスルハ一  
 方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作  
 人ヲラシメントスルハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地  
 ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令  
 ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限りハ夫レカ  
 爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ  
 專ラ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然ラハ則チ被上告人ニ於テハ實際自  
 ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑フ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人ニ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ス可ラサル被上告甲第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人也ト言フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原告ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケタリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルコト非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ寂麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一并ニ二ハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラシテ起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キナ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルチ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タント欲スレト其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレト當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノ二ニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハニ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タント欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タラ上告人ニ於テ証明ス可キナ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラス否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシトハ地方ノ習慣ニ據テ爭フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシト明認セルニ於テオヤ  
右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソクテ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之ヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルチ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告<sup>(被上)</sup>カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告<sup>(上)</sup>ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村東山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計算爲シタルチ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシチ知ルコ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルト上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルヲ明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸コ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ販シタリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モニナカラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルコトハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限りハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルヲ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナシ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルコト左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滞米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第九十一號

○小作淹滞米請求一件長崎上等裁判所裁判不當上告ノ判文(明治十四年九月三日上告  
 明治十五年三月三十日申渡)

長崎縣肥前國東松浦郡山田村平民

上告人

櫻井貫一

東京府京橋區南紺屋町十一番地寄留堀玉縣士族

右代言人

高橋一勝

長崎縣肥前國東松浦郡鏡村平民

被上告人

脇山健治

東京府神田區中猿樂町二番地平民

右代言人

大井憲太郎

上告ノ要領

被上告者ニ於テ本訴小作米ヲ生スル地所ハ上告者ノ所有地ニ非ス村方ノ共有ナルカ故  
 ニ村民ノ都合ニヨリ協議ヲ以テ明治十一年度以後ハ村民ニ於テ共作シタリト主張スレモ  
 該地所ハ往古ヨリ村民共有タリシコトナク在勤庄屋ノ所有ニシテ明治五年庄屋役廢止ノ後上  
 告者ノ所有ニ歸シタルコトハ裁ニ上告者ト被上告者居村村民一同トノ地所々有爭論詞訟ノ  
 末上告者カ上告乙第一號証地券ヲ受ケ乙第二號証ノ課稅ヲ勤ムルヲ以テ明瞭タリ且古來  
 庄屋ヨリ小作ヲ仕附ケ置キタルコトハ上告乙第四號証ノ如ク又庄屋廢止ノ後モ舊慣ニ基キ  
 上告乙第三號証及ヒ乙第五號乃至第七號証ノ如ク被上告者ハ連綿トシテ上告者ノ小作人



タリ其第五號証ハ村長山下武吉ヨリ差出シタル明治六年度租稅差引帳簿ニシテ其前記ヲ  
 上告者カ貢租ヲ負擔セシ部門トナシ其後記ヲ被上告者ヨリ上告者へ差入タル小作米ノ高  
 ナ詳記セシ部門トナス其第二ノ証ハ村長山下武吉カ上告者へ差出シタル書面ニシテ被上  
 告人等ヨリ小作米ヲ上告者へ差入タルコトヲ証ス可キモノナリ又乙第六號証及ヒ乙第三號  
 証モ悉ク是被上告人等カ上告者ノ小作人タルコトヲ証ス可キモノナリ而シテ上告番外第四  
 號ノ第一証被上告人等カ明治十三年十一月六日附ヲ以テ初審廳へ呈出シタル論辨書中  
 「明治十年以前ニ於テ該地ヲ原告訴フル處ノ米高ニテ小作致シ居レリ云々」ト明言シ被上  
 告甲第二號証ニモ「私共ニ於テハ明治九年十年年度迄耕作致シ云々」ト明言セリ夫レ此明言  
 ナリテ以上掲列ノ証據書類ニ對照スルキハ被上告人ハ上告者ノ小作人タルコト増々以テ明  
 カナリトス而シテ被上告者ハ甲第一二號証ヲ提供シテ明治十一年度以後ハ藤本甚八外九  
 名ニ於テ耕作致シ居ルノ証據トスレド個ハ被上告者等ノ偏言ニ止マルノミナラス初審廳  
 へ差出タル答辨書并ニ上告番外第二號第二証ニハ該地所凡八町七反余ヲ全村ノ戸數ニ割  
 リ一戸ニ付凡六畝歩宛ヲ耕作シ居ル旨ヲ主張シ甚八等モ之ニ連署アリ此ノ如ク相抵觸ス  
 ル証據書ニ吉川禮太郎ハ前後二様ノ保證ヲ爲スノミナラス上告乙第七號第二証ニ「村民  
 并ニ貴殿方ノ依頼ニヨリ特別ヲ以テ帳簿上取立受拂致候小作米ハ地主小作人間相對上取  
 極ノ出入ノ調書指出候上合計ヲ貢租座ニ付込取立罷在候云々」トノ保證ヲ爲シタルニ非  
 スヤ斯ク地主ト小作人ト相對ニテ取極メ特別ヲ以テ依頼スル程ノモノナルヲ地主ノ承諾  
 モナキニ村民カ勝手ニ或ハ共作シ或ハ甚八外九名等へ小作セシムベキ道理アルコトナシ以

上辨明スル如ク被上告者ガ提共スル証據書ノ與書保證ハ信ヲ置クニ由ナク又該証ニ連署  
 スル村民ハ該地所々有爭論ニ關シ現ニ詞訟ヲナシ居ルモノナレハ素ヨリ信スヘキコト非ス  
 右ノ如ク被上告者ハ上告者ノ小作人タル証據アリテ小作人ヲ止メタルコトヲ証スヘキモノ  
 ナシ然ルニ長崎上等裁判所ハ其判文第一條ニ於テ「本訴ノ小作米ヲ生スル地所ハ原告ニ  
 於テ明治十年迄耕作セシモ其以來耕作相止メ該地所ヲ村總代人エ引渡シ藤本甚八外九名  
 ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告カ提共セル乙第一  
 號乃至第七號証ニ於テ原告カ小作タルヲ證明スヘキモノナク云々」ト裁判セラレタルハ  
 頗ル不當ノ裁判ト云フヘキナリ

凡ソ小作人ノ地主ニ於ル其關係タルヤ小作人ハ務メテ懇切ニ地所ヲ耕耘シ以テ其德米ヲ  
 地主ニ差入ルヘキ義務アリ又地主ハ小作人ヲ責メテ此等ノ義務ヲ盡サシムルノ權利アリ  
 此權利義務ハ常ニ契約上ヨリ生スルモノナレハ苟モ此權利ヲ得或ハ免レントスルキハ一  
 方ノ承諾ヲ俟タサル可ラス故ニ小作人タル被上告人ニ小作ヲ止メ他人ヲシテ代テ小作  
 人ヲラシメントスルキハ地主ナル上告人ニ告テ其承諾ヲ得ヘキ者ナリ豈ニ擅ニ其小作地  
 ヲ他ニ轉小作セシムルヲ得ンヤ是一般普通ノ法理ナリ此故ニ被上告者ニ於テ好シヤ設令  
 ヒ藤本甚八等ニ耕作セシメタリトスルモ上告者ノ承諾ヲ得タルノ証據ナキ限リハ夫レカ  
 爲メ自身小作人タルノ義務ヲ免ル可キモノニ非ス何トナレハ此轉小作ヲ爲サシメタルハ  
 專テ被上告人カ勝手ノ所爲ニ出タルモノナレハナリ然レハ則チ被上告人ニ於テハ實際自  
 ラ耕作シ居ルト否トニ拘ハラヌ本訴請求ノ通り小作米ヲ差入ルヘキ義務アルハ疑ヲ容レ

サル所ナリ然ルニ長崎上等裁判所ハ地主タル上告人ノ承諾モナキニ小作人タル被上告人等一己ノ專斷ヲ以テ他人へ轉小作ヲナスモ不都合ナキモノ、如ク認メ小作トハ何物ニテ如何ナル性質ナルモノカテ論究セズシテ反テ信用ヲ可ラサル被上告人第一二號証ヲ誤信シ現ニ耕作ヲシ居ラサル被上告人ニ對シ小作米ヲ請求スル權利ナキモノナリト裁判セラレタルハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

上來陳述スル如キ理由アルニ付明治十四年五月三十一日長崎上等裁判所ニ於テ申渡サレタル裁判ハ破毀セラレノヲ請願ス

答辨ノ要領

上告人ハ明治十年度迄被上告ニ於テ舊庄屋地ヲ小作セシ証ヲ掲テ十一年度以降今日ニ至リ尙ホ該地ノ小作人ト云フト雖モ毫モ其証ナク却テ甲第一二號証ノ如ク該年度以降現ニ藤本甚八等ニ於テ小作シ居ル反証アリ夫レ如是始審起訴者タル上告人ニ於テ該反証ニ優ル証據ヲ掲テ以テ十一年度以降小作人タルヲ確証シ得サル以上ハ假ニ甲第一二號証ナキニモセヨ被上告者ヲ指シテ現今尙ホ小作人ナリト云フヲ得ス

抑モ舊唐津領ニ於テハ舊庄屋地ハ勿論ナリ尋常ノ小作地ニ於ケルモ亦村總代ニ於テ之レカ仕附ヲ爲シ小作米ヲ取立テ貢租等ヲ引去リ其殘米ヲ地主ニ渡スノ慣習ナルヲハ本訴原被ノ明認セル所ナリ而シテ其村總代ナルモノハ則チ上告人ノ代理者ニシテ小作米ノ取立等凡テ小作地ノ進退ヲ爲スモノナリ故ニ被上告者ハ十年度ノ末ニ至リ此代理者ニ小作地ヲ返戻シ代理者ハ更ニ之ヲ十一年度ヨリ他人ニ貸附ケケリ然ル故ニ十年度ニ被上告者カ

小作人タリシトテ之ヲ類似トシテ現今尙ホ小作人ナリトスルヲ得ス然ルニ上告人ハ舊唐津領一般ノ習慣ヲ知ラサルモノ、如ク普通ノ地主ト小作人ニ於ケル理論ヲ主張シ來テ十年度迄小作セシ以上ハ他ニ轉小作スルニ非レハ猶十一年度以降モ小作人タリ既ニ小作人タルヲ明白ナル以上ハ地主ノ承諾ヲ經ス恣マニ轉小作スルヲ得ス云々ト論スレモ蓋シ寂麥ヲ辨セサル偏理論也トセサルヲ得ス何トナレハ前文既ニ論セシ如ク被上告人ハ恣マニ轉小作セシニ非ラス村總代ヨリ借受タルヲ以テ村總代ニ返地シタルモノニテ十年度迄小作シタルハトテ十一年度以後小作セサル限リハ本訴ノ請求ニ應ス可キ責任ナキ勿論ナレハナリ

又上告人ハ數個ノ証據物ヲ提出シテ被上告者ニ於テ十一年度以降連綿小作人タルヲ証明セント試ミタレモ毫末モ立証ノ効ナシ夫ノ上告乙第一號第二號証ハ只地主タルヲ証スルニ過キス乙第三號証ハ自家ノ手扣帳ニシテ明治十年ノ調製ニ係レハ十一年度以降被上告者ヲ小作人トスル効力ナシ其乙第五號証ノ一并ニハ村長山下武吉ヨリ上告人ニ渡セシ証明書ナレモ只舊庄屋地ノ持主上告人タルヲ証スルニ足リ就中其二ハ明治六年中ノ事柄ヲ記載セルモノナレハ共ニ十一年度以降ノ小作人何誰タルヲ証スル効力ナシ乙第六號以下乙第七號ノ二ニ至ル數証モ悉皆明治六年ヨリ十年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ看ル可キモ十一年以降ノ事蹟ヲ看ルニ足ルモノナシ然レハ則チ上告人ニ於テ被上告者ヲ十一年度以降猶小作人ナリト云フモ信ス可キ様ナシ故ニ若シ十一年度以降被上告者ニ於テ小作セサル反証ナキニモセヨ容易ク上告人ノ供述ヲ採ルヲ得ス須ラシテ起訴者タル上告人ハ己レ

ノ代理者タル村總代ヨリ十一年度以降小作人ノ何人タルヤ其証ヲ得テ起訴ス可キヲ相當ナリトス

又上告人ハ上告番外証據物ヲ掲テ村中共作ノ文字アルヲ奇貨トシ甲第一二號証ヲ毀タシト欲スレモ其甲號証ト上告番外証ハ矛盾セルニ非ラス該証タルヤ別件訴訟即チ舊庄屋地取戻ノ詞訟一件ニ管スル上申書ナレモ當時其議アリシ儘テ上申セシ迄ニテ舉行セザリシコトハ被上告番外証ニ於ケルカ如シ又假リニ甲號証カ上告番外証ノニニ矛盾セルトシテ甲號証ヲ斥ケ番外証ヲ真正ナリトセンカ然レハ村中共作ナルヲ以テ被上告人ヲ目シテ小作人ナリト云フヲ得ス蓋シ上告人ハ番外証ノ事實ヲ真正ナリト認ムルニ非ラス只十一年度以降藤本甚ハコ於テ小作セリト云フ甲第一二號証ヲ毀タシト欲スルノ精神ナル乎然レハ假リニ此兩証ヲキモノナリトスルモ十一年度ニ被上告人カ小作人タリシ事蹟ヲ推シテ十一年度以降モ亦小作人タリト云フヲ得ス十一年度以降小作人ノ何誰タルヤハ別ニ起訴者タル上告人ニ於テ証明ス可キヲ相當ナリトス其故何トナレハ人ニ物ヲ貸シタリト訴フルモ借ラスト云ハ、貸シタル確証ナカル可カラズ否ラサレハ其相當ノ持主ニ於テ自カラ之ヲ所持シ居ルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ本訴ノ小作地ハ世間普通ノ小作地ニ反シテ實ニ地主ヨリ直接ニ貸附タルニ非ラス村總代ノ進退ナリシコトハ地方ノ習慣ニ據テ争フ可カラス又上告人ニ於テモ此習慣ナリシコトヲ明認セルニ於テオヤ右ノ理由ナルニ付到底原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告人ノ論辨ハ翻テ不當ノ上告ナリト思惟ス

仍テ相當ノ判決アラソコトヲ請願ス

辨明

本訴訟地ハ明治十年度迄被上告者カ小作シ來リタルコトハ其自ラ明言スル所ニ於テ明カナリ而シテ其小作權ハ當時村總代ヨリ之レヲ得タリト云フモ絶テ之レカ証憑アルヲ觀サルノミナラス始審裁判狀中被告(被上告)カ申立ノ部門ニ「其小作米明治十年迄右習慣ニヨリ惣代ニテ取立原告(上告)ニ差入レタリ」云々トアリ夫レ小作米ノ所得權ヲ有スル者ハ當然地主ノ外之レナキモノナレハ其小作米ヲ上告者ニ差入レタリト云フ以上ハ上告者ハ地主ナリ自分ハ小作人ナリト被上告者於テ自ラ信認シ居タルモノナルヘシ殊ニ上告乙第五號第七號証ニ明治六年及ヒ明治十年分論地ノ小作米ハ當時村東山下武吉吉川禮太郎等ニ於テ被上告者共ヨリ取立上告者カ上納スヘキ論地ノ貢租ト差引計籌爲シタルヲ觀レハ果シテ上告者ハ地主ニシテ被上告者ハ其小作人ノ一人ナリシヲ知ルニ足レリ然ルニ被上告者ハ其甲第一二號証ヲ提出シ明治十年度ニ於テ該地ハ村總代ニ返戻セシ事ヲ証明シ且其村總代ハ上告者ノ代理人ニシテ現ニ其小作米ハ從來村吏ニ於テ取扱ヒ來リタリトノ所論アルモ上告乙第五號第七號証ニ據ルニ村吏ニ於テ被上告者共ヨリ小作米ヲ取立上告者カ上納スヘキ貢租ト差引等ノコトヲ取扱ヒタルハ其當時原被告カ請願ニ出テ上告者カ代理ノ分限上ヨリ取扱ヒタルモノニアラサルコト明白ナレハ被上告者カ該地ヲ村總代ニ返戻ナシタリト云フハ甚タ謂レナキモノナリ又上告番外第二號証即チ明治十三年九月廿四日被上告者等ヨリ唐津區裁判所ニ差出シタル上申書ニ據レハ論地ハ明治十一年度ヨリ全村ノ戶數

ニ割當テ一戸コ付凡ソ六畝步ツ、分割シ村中總作ニ飯シクリトノ旨趣ニシテ又同裁判所  
 へ差出シタル答辨書中ニモ「明治十一年度ヨリ村中一同協議ヲ遂ケ惣作ニ議決シ」云々ト  
 アリ而シテ控訴ニ至リ初メテ被上告者ハ藤本甚八外九名ニ於テ小作ナセリト申述セリ夫  
 レ前ニハ村中ノ惣作ニ歸シタリト云ヒ後ニハ藤本甚八外九名ニ於テ小作セリト云ヒ其申  
 述ニ於ケル前後相違アルノミナラス其藤本甚八外九名ニ於テ小作シ居ル云々ニ戸長吉川  
 禮太郎ノ保証アルモ其村中惣作ニ歸シタリ云々ニモ亦同人ノ奥印アレハ此保証ハ勿論其  
 事實モ二十カラ信ヲ措キカタキモノナリ抑モ論地ハ上告者カ所有ニシテ明治十年度迄被  
 上告者ニ於テ小作シ來リタルヲハ上文辨明ノ如ク被上告者ノ明認スル所ナレハ好シヤ被  
 上告者ハ明治十一年度ヨリ之レヲ自己ニテ小作セサルモノトスルモ其小作權ヲ正當地主  
 ナル上告者へ返戻セシトノ証憑ヲ掲ケサル限リハ猶ホ小作人タルノ性格ヲ脱セサルヲ以  
 テ本訴ノ小作米ハ被上告者ニ於テ辨納セサルヘカラサル責アルナリ然ルテ長崎上等裁判  
 所ニ於テハ「該地所ヲ村總代人へ引渡シ藤本甚八外九名ニ於テ耕作致シ居リシハ甲第一  
 二號証ニ於テ判然タルノミナラス被告<sup>上</sup>カ提供スル乙第一號乃至第七號証ニ於テ原告  
 被告<sup>上</sup>カ小作者タルヲ証明スヘキモノナシ」云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス  
 仍テ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ判定ヲ與フルヲ左ノ如シ

判決

被上告者ハ上告者カ請求スル本訴小作淹滯米ハ之レヲ辨納スヘシ  
 但シ訴訟入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第九十二號

○家屋目割相場取調引直違變ノ詞

訟一件東京上等裁判所裁判不當

上告ノ判文(明治十四年九月九日上告)  
 (明治十五年三月三十日申渡)

上告人

長野縣信濃國東筑摩郡豊丘  
 村平民

百 瀬 民 三

東京府神田區中猿樂町二番  
 地平民

大 井 憲 太郎

長野縣信濃國東筑摩郡南深

志町八十七番地平民

大 澤 喜 八郎

被上告人

上告ノ要領

第一條

原裁判所ニ於テ原告協議上ニテ成立タル甲第二號及ヒ之ニ附屬セル甲第三號乃至第七  
 號ヲ被告ニ於テ無効ナリト評駁スルニ任セテ其効ノ有無ヲ審究セスシテ原裁判ヲ下サレ  
 タルハ失當ナリト思惟ス被告ハ第一回ノ評價ヲ不當ナリト言倣ス爲メニ勝手自儘ニ甲第

二號証ノ解釋ヲ爲シ該証タル唯評價ヲ爲スノ約定ニ止マリテ之ヲ活用スルト否トハ被告ノ採擇ニ任セテ可ナルモノ、如ク論スレハ原被承諾上ニ成立タル契約ヲ被告ノ隨意ニ消長セシメ得可キ理ナシ此ニ甲第二號証ノ効力如何ニ論及セシニ該証タルヤ原裁判所ノ認定被告ノ論辨ニ於ケル如ク徒爲無効ノ契約ニアラス其文ニ曰ク「右ノ通立入人ヨリ原被告ニ相談ノ上相定メ候ニ付來ル二十日立合ノ上直積リ爲致可申儀相定候事」トアリ又甲第三號乃至第七號証ノ直積リ書タルヤ悉皆原被ノ承印アレハ仮令甲第二號証ニ評價セシ所ヲ用ユヘキト否トノ明文ナキモ該契約ノ主眼タル評價ヲ得ルニ在ルヲ無論ナリ豈ニ徒タニ評價ノミノ約定ニ止マリ其結果ヲ採ラサル如キ徒勞無用ノコトヲ特ニ約スル理アランヤ

夫レ如是甲第二號証及ヒ其附屬ノ評價書（第三號乃至第七號）ハ原被承諾上ニ成立タル有効ノ契約ナリ然ルチ契約一方本人タル被告ノ意ニ滿タザレハトテ之ヲ用ユルト否トハ己レノ隨意ナリト云フテ可ナランヤ此ヲ以テ始審裁判所ニ於テ第二回ノ評價ヲ命スルヲ待タズシテ先ツ甲第二號証ノ効力有無ヲ審究ス可キ筈ナルコトヲ審究セスシテ初審應ニ於テ被告カ承諾上ノ契約ヲ恣マ、ニ取消サンカ爲メニ其不正無効視ス可キ證據ヲモ供セスシテ甲第二號以下ノ數証ヲ不正無効ノモノナリト陳言シタル被告ノ不當論ヲ偏取シタル始審裁判ヲ採用シ更ニ甲第二號証ノ効力有無ヲ覆審セス一概ニ甲第二號証ヲ無効ニ屬セシメタル裁判ヲ與ヘテレシハ失當ナリト思考ス

## 第二條

原裁判所カ第一回ノ評價ヲ真正ノ者ト認メ得スシテ更ニ第二回ノ評價ヲ命シタルヲ依リニ相當ナリトセンカ然ルモ尙ホ原裁判ヲ失當ナリトセサルヲ得ス前條既ニ論セシ如ク甲第二號証契約ノ結果タル第一回ノ評價ハ原被承諾上ニ出タルモノナレハ一概ニ之ヲ棄却シテ第二回ノ評價ノミヲ偏取ス可キ理ナシ若シ被告カ己レノ承諾上ニ出タルコトモ關セス第一回ノ評價ヲ取消サント試ムル場合ニ於テ裁判官カ審理ノ鄭重ナランコトヲ要シ第二回ノ評價ヲ爲サシメ其前後二回ノ評價ニ甚シキ差異アルヲ見シナレハ前後二回ノ評價ヲ平均シタル價額ヲ採用スルカ然ラサレハ更ニ第三回ノ評價ヲ爲シテ中正ヲ得ルノ審理ヲ爲サレ可カラズ然ルニ原裁判所ハ第二回ノ評價カ第一回ノ評價ヨリ下ルコト數等ナリトテ其差異ノ甚シキヲ見テ遽カニ第二回ノ評價ヲ不當ナルモノ、如ク認定セラレ第二回ノ評價ノミニ偏依シテ裁判ヲ下サレタルハ不當ナリ豈ニ過高過低ヲ以テ遽カニ甲乙孰レチ相當ナリト速斷スヘキモノナランヤ第一回ノ評價ニテ被告ニ損害アリトセハ第二回ノ評價ハ原告ニ損害アルモノナリ故ニ中正ヲ得ルノ審理法ニ依ルノ外他ニ審理ノ準據ナシ今又第二回ノ評價ノミニ偏依スヘカラサル理由ヲ論センニ第一回ノ評價タルヤ原被承諾上ニ出タルモノニテ其評價人撰定方タル被告居町ノ戸長ニ於テ擔任シ初審應ニ上申セシ上評價セシメタルモノナレハ之ヲ公正ノ評價人ナリトセサルヲ得ス其評價ノ効力ニ於ケルモ亦第二回ノ評價ニ比シテ差異輕重アリト云フ可カラズ然ルニ被告カ自儘勝手ノ說ヲ主張シテ第一回ノ評價ヲ不正ナリト云ハ、トテ其片言ニ依リテ第一回ノ評價ヲ不正無効ナリト速斷シタル如キハ蓋シ失當ノ裁判ナリ裁判所カ直任シタル評價人モ原被承諾上ニ

テ任シタル評價人モ共ニ同一ノ効力アルヤ無論ナリ此ヲ以テ本訴ノ如キ争訟ヲ爲シ互ニ此ノ評價ヲ至當ナリトシテ彼ノ評價ヲ不當ナリト論スル場合ニ於テハ其中正ノ得タル公平不偏ノ裁判ヲ與ヘシニハ前後二回ノ評價ニ就キ其中間ヲ採ルカ或ハ更ニ第三回ノ評價ヲ命スルヲ以テ至當ノ審理法ナリト固信ス然ルニ原上等裁判所ニ於テ第一回ノ評價ヲ理由ナク排斥シテ單ニ第二回ノ評價ヲ採リテ裁判ヲ與ヘラレタルハ失當ナリト愚考ス

辨明

上告者カ據テ以テ論辨スル甲第二號証及ヒ第三號乃至第七號証ヲ按スルニ甲第二號証ノ約定タルヤ單ニ直積スヘキ人員ト期日トヲ選定セシニ止リテ縱令ヒ如何ナル見積リアルモ之ヲ循行シテ必ス異議ヲ容ルヘカラストノ趣旨コアラヌ即チ甲第二號証ノ文詞タル「右ノ通立入人ヨリ原被告ヘ相談ノ上相定候ニ付來ル二十日立合ノ上直積爲致可申儀約定候事」トアレハ之ヲ以テ其見積タル代價ハ必ス循行セサル可カラサル効力アル契約トハ見ルヘキ様ナシ又甲第三號乃至第七號証ノ内被上告者カ押印アルモ夫ハ新ニ家屋ヲ築造スルノ見積リ書ニ押印シアルノミナレハ之ヲ以テ甲第二號証ノ効ハ其見積代價ニ必ス服從セシムル力アルモノトハ爲シカタン  
然レハ被上告者ニ於テ其見積リ代價ニ不服アラハ固ヨリ其異議ヲ陳フルノ權アルモノナレハ始審裁判所ニ於テ裁判官カ職權ヲ以テ更ニ評價人ヲ撰定シ之レカ評價ヲ爲サシメタルハ當然ノコナルカ故ニ原裁判所ニ於テ更ニ甲第二號証効力ノ有無ヲ審究スルヲ要セス「該評價ノ平均金五百圓五拾錢ヲ以テ速ニ可致讓與云々」ト申渡シタルハ失當ノ裁判ト云

ヲ得サルナリ

判決

右辨明ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス  
第九十三號

○判文(明治十四年十一月十四日上告)  
(明治十五年三月三十日申渡)  
上告人

右代言人

- 千葉縣下総國印旛郡上勝田 村三十七番地平民 圓道寺佐五兵衛
- 東京府深川區佐賀町壹丁目 十二番地寄留茨城 縣士族 鴨志田直

- 千葉縣下総國印旛郡上勝田 村三十九番地平民 那須健次郎

- 東京府日本橋區吳服町壹番 地平民 伊藤隆真

山林地境界争論一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トナシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

凡ソ土地ノ讓與者又ハ賣渡主ノ其地ニ關涉スルハ其地ヲ其讓受人又ハ買得者ニ引渡ス迄ノ間ニ止マリ既ニ引渡シタル後ハ之ニ關涉スヘキ權利ナキモノトス  
抑モ本案論地及其周囲ノ地ハ曾テ川島喜兵衛ノ所有ナリシモ被上告第一號証ノ地ハ文久元年中被上告者ヘ讓與シ上告第一號証ノ地ハ明治十一年九月中上告者ヘ賣却シ直チニ之ヲ引渡シタリ依テ川島喜兵衛ハ右ノ地所ニ毫モ關係アラサルモノナリ然ハ則川島喜兵衛カ論地ニ關係スルノ權利ハ明治十一年九月上告者ヘ地所ヲ引渡シタル時消滅セルモノナルヲ以テ明治十四年五月ニ至リ被上告ヘ與ヘタル被上告第五號証ハ何等ノ効力ヲモ有セサルモノナリ若シ該証ヲ以テ論地ヲ証スヘキ効力アリトセハ土地ノ原所有者ハ數百年ノ後ニ至ルモ其地ニ關涉シテ所有者ヲ指定スル權利アルモノトセサルヲ得ス世間豈如斯理アラザヤ然ルニ原裁判所ニ被上告第五號証即原所有者川島喜兵衛カ証言ヲ採リ本案裁判ノ材料トシ論地ヲ被上告者ノ所有ナリト裁決セラレシハ不法ナルヲ以テ上告シテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

又本訴論地ノ所有者ヲ判定スル確証ハ上告第三號証左ナリトス何トナレハ該証ハ土地ノ所有者カ憑テ以テ所有地區域ノ証據トスル地租改正圖面ナレハナリ然リ而シテ該証中淡紅色ト論地トノ間ニ畫セル墨線ハ上告者所有地ト被上告者所有地トノ境界線ナリ然ルニ被上告者ハ是耕地宅地ノ改正ニヨリ成立タル圖面ナレハ山地ニ關係ナシト云フ

ト雖モ該圖ハ耕地宅地山林等總テ各自カ所有セル地所ノ區域ヲ實地ニ就テ正フシ順次ニ番號ヲ附シタル適實ノモノナルヲ以テ右圖面中ニ第四十四番ト四十八番ト山間又六十六番ノ山間及ヒ十番ト四十九番ノ山間等ニ境界ノ墨線アル所以ナリ是山地ノ境界ヲモ正フセル圖面ナルヲ知ルヘキナリ故ニ被上告者カ上告第三號証ニ對スル辨駁ハ採ルニ足ラサルモノナリトス仍テ本案ハ右三號証ニ憑リ判決セラレヘキヲ原裁判所カ該証ヲ採ラサリシハ証據ノ取捨ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトノ事

被上告者ハ上告ノ不當ナル旨ヲ以テ原裁判ヲ辨護シタリ依テ辨明并ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

本訴上告ノ要点ハ正確ナル上告第三號証即チ地租改正圖面ニ憑テ境界ノ論定スヘシシテ元所有者タリシ川島喜兵衛カ証言ハ証トス可キモノニ非スト謂フニアリ因テ之ヲ審案スルニ原裁判所ニ於テ上告第三號証ヲ採用セズ却テ川島喜兵衛カ証言ヲ採用シタル所以ハ明治十四年一月二十一日東京裁判所千葉支廳ニ於テ甲乙兩線那レノ一方ヲ以テ信認スヘキヤヲ推究セン爲メ實地臨見ヲ爲シタル場合該村戸長於テ上告第三號証ハ耕宅地取調ノ際成立タルモノニシテ山林原野ハ調査未濟ナリト申立一概ニ之ヲ以テ正確ノ証據ト爲シカタクキ事情アルニモリ實地凹凸ノ形狀アル事ト林相殊別ノ模様アル事等ニ依リ斷決セシ事實ヲ根據トシ猶ホ原所有主タリシ川島喜兵衛カ証言果シテ實地ニ適合スヘキヲ看認メ以テ本案裁許ノ資料ト爲シタル者ナレハ他ニ信憑スル所アリテ爲シタル裁判ニシテ決ノ謂

レナク取捨セシモノニ非ストス如何トナレハ原判文中到底初審判決ノ通り云々トアリテ  
 初審判決ノ全文ヲ用井タル旨概明了ナルヲ以テナリ左スレハ原判文中元ト所有者証言ノ  
 効力ノミヲ説示シテ他ヲ示サ、リシニヨレハ或ハ之ノミニヨリタル歟ノ嫌アルモノ、如  
 キモ要スルニ初審判決ノ趣旨ヲ補助シタルニ過キサレハ決ノ上告者辨論ノ如ク原所有主  
 ハ數百年ノ后モ所有主ヲ定ムルノ權利アリト云意味ニアラサルナリ況ンヤ兩造明証ヲ揭  
 ケサル場合ノ如キ原所有主ノ証明スル所尤參証トスルニ足ルヘキモノナルニ於テチヤ論  
 シテ此ニ至ル上告第三號証圖面ハ耕宅地調査ノ際成立タルモノニシテ上告第四號証ニモ  
 「明治九年耕宅地取調ノ際調製相成候該村扣ノ繪圖面へ引合候處相違無之トアリ」山林原  
 野ハ調査未濟ナリシトノ事柄ナレハ仮令該圖中上告者申立ノ如キ界線アルモ元ト何ニヨ  
 リテ此ノ如キ界線ノ成立タルヤ基ク處明了ナラサルモノナルニヨリ到底之ヲ以テ被上告  
 者カ實迹ノ確証ヲ動カス能ハサル道理ナリトス然レハ則原裁判所於テ右三號証ニ對シ何  
 等ノ説明ヲ與ヘスシテ「右喜兵衛ノ証明ハ原被告ノ間ニ著シキ効力ヲ有シ其証明ハ詐偽  
 ナリトノ確証アラサル限リハ之ヲ廢棄スル能ハス云々」(中)控訴原告(上告者)ハ尙種々ノ論  
 辨アリテ且實地ノ檢査ヲ乞フト雖モ控訴原告カ提供スル諸証ハ右喜兵衛カ証明ヲ取消ス  
 ヘキ効力ト理由トアルモノニ非ラス」ト辨明シ結局ニ至リ到底初審判決ノ通相心得云々」  
 ト言渡シタルハ適當ノ裁判ニシテ決テ証據ノ取捨ヲ誤リタルモノニアラストス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキ者也

但訴訟入費ハ上告者ヨリ償却スヘシ

第九十四號

○判文(明治十五年一月十三日上告)  
 (明治十五年三月三十日申渡)

上告人

茨城縣常陸國眞壁郡田宿村  
 平民

古橋喜一郎代官人

東京府淺草區北東仲町二番

地寄留茨城縣平民

内 藤 五 郎

茨城縣常陸國眞壁郡田宿村

平民

古 橋 禎 八 郎

被上告人

山林境界爭論一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一條

上告者ヨリ呈供スル地圖ハ地租改正ニ付公正ニ成立タルモノニシテ一筆限帳地價帳等ト  
 牽連離ルヘカラサル者ナレハ他ニ反証ナキ限リハ該圖面ノ境界線ヲ排斥スルヲ得ス况ン  
 ヤ明治九年該圖面調製ノ際古橋禎八郎(被上告兄即)ハ戶長勤役ニシテ自ラ之ヲ調査セシ  
 者ナレハ不實ノ境界線ヲ其儘存シ置ヘキ謂レナシ然ルニ原裁判所ハ一個私製ノ者ノ如ク



之ヲ排斥シタルハ不當ナリトノコト

第二條

論所ノ北部一列ノ樹木ト被上告所有山林トノ間ニ一帯ノ余地アリ且被上告人ノ山林樹木ハ縦横一モ列ヲナサズ故ニ其形狀ヨリ見ルモ論所一列ノ樹木ハ被上告所有山林ノ樹木ト一種ノモノニアラズ然ルニ原裁判所ハ之ヲ一種ノモノト誤認シ境界ニ屈曲アルモノト判定シタルハ不當ナリトノコト

原判文ニ被告(上告人)ノ南隣古橋禎八郎ノ所有山林トアルモ其南隣ニ禎八郎ノ持地無之トノコト

第三條

仮リニ論所ノ北部一列ノ樹木ヲ境界ナリトスルモ管ニ北部一半ニ止ルモノナルニ之ヲ南部一半ニ援引シ原告(被上告人)申立ノ通リト判定シタルハ不當ナリトノコト

第四條

論所ノ落葉下草ヲ収獲シ來リタルハ即チ所有ノ証ナルニ確証ニ立タストセラレタルハ不當ナリトノコト

辨明

第一條

地租改正ノ際調製セル圖面ハ上告甲號証ニ山林境界等ハ見分ケテ以テ割込トアリテ實地測量ヲ逐ケタル者ニアラサレハ其差違ナキヲ保シカタシ故ニ原裁判所カ實際ノ模様ニ依リ

強テ之ヲ境界ノ確証ト認メカクシト判定シタルモノニテ相當ノ裁判ナリトス

第二條

被上告人カ境界ナリトスル場所ハ論所ノ南北部ヲ問ハズ總テ山林ノ立木ニ沿フテ屈曲チナスモノトス而シテ原裁判所ハ上告人カ自己ノ所有山林ヲ殘リ少ナニ伐採シタル際特リ論所北部ニ在ル一列ノ樹木ヲ殘シ置ク謂レナキトト上告所有地ノ東南ニ接スル被上告所有山林(即チ論外ノ地)ニ於ルモ論所ニ接スル被上告所有山林ト一般被上告人ノ山林立木ヲ以テ境界トナシタル形狀トニ依リ論所ノ境界ハ樹木ニ沿フテ屈曲アリト認定シタルモノニテ理由アル認定ナリトス

原判文ニ被告(上告人)ノ南隣古橋禎八郎ノ所有山林トアルモ其南隣ニ禎八郎持地無之旨申立ルニ依リ原書類ヲ閱スルニ該地ハ上告陳述ノ如ク被上告人ノ所有ニ係レリ然レモ右相違ノ廉ハ本案ニ影響ナキ義ニ付破毀ノ原因トナスヲ得ス

第三條

論所北部ノ一半ニ止ル一列ノ樹木ヲ南部一半ニ援引シ原告(被上告人)申立ノ通リト判定シタルハ不當ナル旨申立レモ原判文ニ該圖面ニ依レハ直線ナルモ實際ノ模様ニ依リ強テ之ヲ境界ノ確証ト認メカクシトアリ又原告所有地ノ(被上告人)樹木ハ稠密云々トアリ且東南ニ接スル原告(被上告人)所有山林ノ形狀ニ就テモ太々明白ナリトアレハ管ニ北部一半ノ樹木ニ依リテ南部ノ境界ヲ判定シタルニアラズトス

第四條

論所ノ落葉下草ヲ収獲セシ等ノコハ素ヨリ所有ノ証ト爲スニ足ラス故ニ原裁判所カ確証  
ニ立タスト判定セタルハ相當ナリトス

判決

前條々辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス  
第九十五號

○貸金催促一件大阪上等裁判所

裁判不法上告ノ判文(明治十四年九月一日上告  
明治十五年三月三十一日申渡)

兵庫縣淡路國津名郡佐野村

平民

稲室伊八郎

上告人

右代言人

東京府江橋區銀坐三丁目

平民

田村成義

大阪府西成郡西高津村廿九

番地本行寺住職久本日回方

寄留兵庫縣士族

中谷喜代藏

被上告人

上告ノ旨趣

原裁判所ニ於テ言渡サレタル裁判ハ被上告者カ提供セシ第一號乃至第三號証ヲ真正確實  
ノモノト認メ被上告者カ請求スル金額ハ上告者ニ於テ辨濟スヘシトノ旨趣ナリ然レ共其  
確認セラレタル第一號証ニ押捺シアル印影ハ上告者ノ實印ト相違シ而シテ第二號証中上  
告者名下ノ印影ト外一印ハ上告者ノ實印ナリト認ムルモ該証中餘ノ即ハ上告者ノ實印  
ト異ナル而已ナラス上告者カ承諾シテ之ヲ被上告者ヘ交付セシモノニ非ス又第三號証ノ  
書跡ト第四號証ノ書跡ト其筆意相違セリ然ルヲ原裁判ハ其實印ニ非サル即影ヲ實印トシ  
同筆ニ非ルモノヲ同筆ト認定セラレシハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ト思考ス  
右ノ次第ナルニ付原裁判ヲ破毀セラレ更ニ至當ノ判決ヲ下サレシコトヲ請願ス

辨明

被上告第二號証上告者名下ノ印影ト外一印トハ上告者ノ實印ニ相違ナキモ該証ハ上告者  
カ承諾シテ交付セシモノニ非ト云モ之ヲ証明スヘキ證據ナクレハ信ヲ措クニ由ナシ而シ  
テ上告者カ控訴答辨書ニ被上告者ヨリ稻室三木太ヲ相手取り出訴シタル節其訴訟ノ願ヒ  
下ケヲ爲スニ上告者則伊八郎ヨリモ書面可指出筋ナリト云テ以テ白紙ノ上下ニ調印シ相  
渡シタルヲ以テ被上告第二號証ヲ作爲セシ者、如ク掲記セリ然ルニ被上告者カ三木太ト  
ノ訴訟願ヒ下ケヲ爲スニ何ソ上告者ノ書面ヲ要スル理アラシヤ又仮令要スルコトアリトス  
ルモ大切ノ實印ヲ白紙ニ押捺シ輕々人ニ渡スノ理アラシヤ加之被上告第三號証ニ殘金  
四百九拾四圓五拾錢ノ處私割持云々トアレハ之ヲ推究スルモ四百九拾余圓ノ金額ヲ三  
木太ト上告者ト分擔セシモノ、如シ如此次第ナルヲ以テ被上告第二號証ハ上告者承諾ノ

上差入レタルモノト見做スニ充分ナリトス然レハ原裁判所カ原告(被上)第二號証ハ被告(上告)カ正シク差入レタル者ト認定セシハ相當ナリトス

但シ上告者ハ今ニ至リ被上告第二號証ノ印影ハ實印ニ相違ノ分有之又被上告第三號証ノ筆蹟ハ相違セル云々申立ルト雖モ原裁判所ヘ不申立事柄ニ付本院ニ於テ辨明ヲ與ル限ニ非ス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以明治十四年六月十六日大阪上等裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第九十六號

○判文(明治十四年九月十日上告(明治十五年三月三十一日申渡))

上告人

栃木縣下野國下都賀郡卒島  
村平民岸勘藏代言人  
東京府神田區美士代町二丁目一番地寄留愛知縣平民

森 條 右衛門  
栃木縣下野國下都賀郡石塚村平民

被上告人

町 田 理 一郎

委托地取戻一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スルノ要旨左ノ如ク

第一條

原判文中「原告(上告)ニ於テ委托セシ証據ナク勿論該地ハ絶家セシ土地ナレハ其所有主ニアラサルモノヨリ之ヲ委托スヘキ道理ナシ」トアリ故ニ今仮リニ其判文ノ如ク曾テ委托スルモノ、ナキ地所ナリトセハ被上告者ニ於テハ如何ナル理由ノアルアリテ管理シ來リタルヤ其管理スヘキノ理由ナカルヘカラス而テ其理由タルヤ上告者先代忠左エ衛門生存中自分相續人ナキヲ以テ再興ノ期ノ至ル迄ノ保管ヲ被上告者ノ先代ヘ委托シ置キタルモノナルヘシ若シ然ラサリセハ當時當村ノ慣例(潰式ノ財産ハ總テ當時ノ村吏ニ於テ管理シ至ル毎ニ其再興者即チ相續人ヘ返戻シ來レルヲ謂)ニ外ナカルヘシ如何トナレハ被上告者ニ於テモ買取シタルニアラヌ又讓受ケタルニモアラヌ忠左衛門ノ死去後相續人之レナキニ付其田畑自分ニ於テ引受ケ進退致來リ云々ト明言シアレハナリ然ハ則チ忠左衛門ノ委托ニ應シ進退管理シ來リタルカ或ハ該村ノ慣例ニ依テ管理シ來レルモノニシテ再興者即チ相續人ヘ返戻スヘキモノナレハ忠左衛門カ委托セシト毫モ異ナルナシ然ルニ原裁判所ニ於テ前顯ノ如ク判定セラレタルハ不當ナリトノコ

第二條

同判文中「被告(被上)第一號証ノ如ク遂ニ明治六年ニ至リ一村協議ノ上被告ニ於テ之レ

カ所有權ヲ得タルモノト認定スレトアレバ其被上告第一號証ハ一村ノ協議書ニアラスシテ該村潰式ノ相續方ヲ其管轄廳ニ出願ス可キノ書面ナルハ其文中ニ明カナルノミナラス被上告者ニ於テモ其第一號証ノ如ク願書ヲ調製シ縣廳ニ差出シタル次第ニ候事トノ申立アリ然リ而テ其縣廳ニ於テハ甲第九號証ノ如ク指令セラレタルヲ以テ觀レハ本訴地所ノ如キハ當時村持公有地ノ地券ヲ下付シ置カル可キハ當然ナルニ其然ラサルト甲第二三四號証被上告者ノ申立トヲ参照セハ被上告者ニ於テ亡忠左衛門ノ潰式ナルヲ隱蔽シ自分所有地ノ如ク申立タル者ト信認ス加之甲第十號証ノ如ク縣廳ニ於テ指令セラレタルハ被上告第一號証ハ當時縣廳ニ差出サ、リシモノナル可シ仮リニ差出シタルモノトスルモ其願意ハ許容セラレサリシモノニシテ無効ノ反古紙ナルヲ顯然タリ尙又仮リニ該第一號証ヲ縣廳ニ差出シ其許可ヲ得タルモノナリトスルモ該証中記載シアル潰式相續人名ノ内ニ記載ナキ被上告理一郎ニ於テ該証ニ據リ本訴ノ地所即チ岸家潰式ノ所有權ヲ得ヘキノ理由アルヘカラサルモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テ該第一號証ヲ有効ノモノナリトシ被上告者ニ所有權ヲ得タルモノナリト判定セラレタルハ不當ノ判定ナリトノ事

辨明

第一條

上告人ニ於テ上告要旨第一條ノ如ク申立ルニ依リ之ヲ審案スルニ本訴ノ論地タル上告者先代亡忠左衛門カ存生中被上告者先代ニ委託シタルモノト見認得ヘキノ証左アラサレハ  
 忠左衛門カ死亡以來其絶家潰式ノ土地ヲ被上告者ニ於テ管理シ來リタルモノト見認サルヲ得ス然レハ論地ハ一定ノ所有主ナキ地所ナルニ依リ村請公有地ニ属ス可キヲ當然ナリトス既ニ村請公有地ト爲シ當然ノモノナル上ハ村民一同ノ協議ニ依テハ之ヲ一己ノ所有ト爲スモ素ヨリ妨ケナキモノナリ依テ原裁判所カ論地ヲ委託地ニアラスト判定シタルハ事理相當ノ裁判ナリトス

第二條

上告人於テ同要旨第二條ノ如ク申立ルト雖モ既ニ前條ニ辨明シタル如ク論地ハ村民一同ノ協議ニ依リ如何様ニモ爲シ得ヘキ性質ノモノニシテ現ニ被上告者カ地券ヲ受タル形迹ニヨリ之ヲ觀レハ當時一村協議ノ上被上告者ニ所有權ヲ付與シタルモノト推定スルヲ當然ナリトス如何トナレハ村受公有地ニ属スヘキモノニシテ村民ノ承諾セサルトキハ被上告名義ナル地券証ノ成立スヘキ道理ナキヲ以テナリ而テ原判文ノ判決ニ於ケルモ論地ノ性質ト被上告者カ地券ヲ所持スルトニ付考案テ下スルハ被上告第一號証ノ如ク一村協議ヲ遂ケタルヘシトノ推測ニシテ該証ヲ以テ直チニ一村ノ協議書ナリト判シタルニ非ラス然レハ被上告第一號証ノ如何ニ拘ラス右ノ認定ヲ動カス能ハサル道理ナルニ依リ原裁判所ニ於テ「一村協議ノ上被上告者」ニ於テ之カ所有權ヲ得タルモノト認定ス云々「言渡シタルハ敢テ不法ノ裁判ト云フヲ得サルモノトス

判決

右ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

○判文(明治十四年十月十四日上告  
明治十五年三月三十一日申渡)

宮城縣陸前國桃生郡赤井村

平民

上告人

吉 木 友 吉

東京府京橋區南傳馬町三丁

目二十一番地

右代言人

大 久 保 端 造

宮城縣陸前國桃生郡赤井村

平民

被上告人

吉 木 榮 治

土地取戻シノ詞訟宮城上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

宮城上等裁判所ノ判文ニ就キ其要点ヲ求ムルニ宮城上等裁判所カ本訴ヲ裁判スルニ其判  
決ノ理由トスル所ハ左ノ二点ニ過キス曰ク控訴原告(被上告)第一號証被告(上告者)友吉  
名下ノ印影ハ縱令ヒ友吉ノ實印ニ非ス友吉實父德右衛門ノ印影ナルモ該証書面ニ現ニ友  
吉ノ實父タル德右衛門カ組頭タル資格ヲ以テ之カ証印ヲ爲シタルニ於テハ何等ノ事由ア  
リテカ友吉ニ於テ父德右衛門ノ實印ヲ代用シ以テ該契約ヲ承認シタリト推測スヘシ曰ク  
初審引合人等ハ皆友吉ノ親屬組合ナリ此等親屬組合ハ故テニ原告(被上告)カ庇護スル者

ニ非スヤ故ニ此等各人カ原告ヲ庇護シタル証憑ナクシハ其証言ハ尤モ信用ヲ置クヘキ者  
ナリト今他ノ語ヲ以テ之ヲ約言スレハ父ノ証印ト親屬ノ証言ハ以テ友吉カ父ノ實印ヲ代  
用シ原告第一號証ノ契約ヲ承認シタルノ証憑ト爲スヘシト云フ者ナリ是レ豈不當ノ裁判  
ニ非スヤ抑上告本人友吉ハ當時既ニ戸主タルヲ以テ上告第二號乃至第四號証ノ如ク別ニ  
實印ヲ有シ凡日用ノ事細大トナシ苟クモ實印ヲ要スルニ當テハ常ニ必ス之ヲ使用シ曾テ  
父ノ印ヲ代用シタルヲハアラサルナリ故ニ被上告第一號証ノ契約ヲシテ依リニ上告本人  
カ承認スル所ナラシメハ上告本人ハ日常使用スル所ノ自己ノ實印ヲ押捺スヘク決シテ父  
ノ實印ヲ使用スヘキ謂ハレナキナリ故ニ被上告第一號証ノ上告本人友吉名下ノ印影ノ上  
告本人ノ實印ヲラサルハ則チ上告本人カ該契約ヲ承認セサルナリ被上告者ニ於テ他ニ証  
憑アリテ以テ上告本人カ果シテ該契約ヲ承認シタルヲ証明スルニアラサル以上ハ該証書ハ  
決シテ上告本人ヲ刺衝スルノ利器タルヲ得サルナリ宮城上等裁判所カ父ノ証印ヲ以テ上告  
者カ該契約ヲ承認シタルノ証ト爲スハ一己ノ推測ヲ以テ無効ノ証書ニ附スルニ効力ヲ以  
テスル者ナリ又宮城上等裁判所カ親屬等ノ証言ヲ引用シ控訴被告(上告者)ハ此各人カ  
故テニ被上告者ヲ曲庇シタルノ証憑アルニアラソンハ其証言ハ確信スヘシト云ヒシハ是  
レ人証ヲ以テ証書ノ上ニ置ク者ナリ夫レ人証ノ極メテ薄弱ニシテ証書ト効力ヲ爭フ能ハ  
サルハ別ニ論辨ヲ要セス一ニ律書ヲ繕讀スレハ直チニ知了スルヲ得ヘシ如何ソ此ノ不  
充分ナル人証ヲ將テ横ニ上告本人ノ實印ナク且自筆ニモアラサル証書ヲシテ更ニ効力ヲ  
生セシムルヲ得ンヤ是レ理ノ尤モ觀易キ者ニテ毫モ思考ヲ費サスシテ知リ得ラルヘシ然

ルニ宮城上等裁判所ハ此ノ如キ親易キ道理ヲ漫過ニ附シ猥リニ推測ヲ逞フシ徒ラニ人証ヲ採用シ亡父徳右衛門ノ証印ト親屬等各人ノ証言トヲ認メ直チニ該証書ヲ以テ上告者ノ承認スル所ト認ユルハ豈ニ事理ニ適シタルモノナリト謂フヘケンヤ是レ上告代人カ不當不理ト爲ス所以ナリ且夫レ宮城上等裁判所ノ如ク肆ニ推測ヲ逞フシ濫ニ人証ヲ容サハ父ノ專横者ハ其子ノ不幸之レヨリ甚シキハナシ請フ一例ヲ舉ケテ之ヲ証セン茲ニ某甲アリ其人ト爲リ方正而實節儉ニシテ能ク家事ヲ治メテ會テ一錢ノ負債ヲ爲サズ此人ヤ其行ノ修マル此ノ如クナルニモ拘ハラズ其父乙某甲ノ名義ヲ以テ証書ヲ造リ自己ノ印ヲ以テ甲ノ印ニ代ヘ其親屬組合丙丁等ヲ誘ヒ之レカ証人ト爲シ且其民生官吏タルノ資格ヲ以テ之レカ証印ヲ爲シ以テ之ヲ戊某ニ交附シ若干金額ヲ借用シ乙ハ負債返済ノ期限ニ至ラサルニ死去セリ後チニ至リテ債主戊某ハ其貸金証書ハ甲ノ名義ナルヲ以テ甲ヲ被告トシテ法庭ニ訴出タリトセン是レ本訴ノ場合ト毫モ異ナル所ナシ唯其契約ノ目的タル土地ニ在ラスシテ金額ニ在ルノ差異アルノミ此ノ時ニ於テ之レカ訴ヲ受クルノ法庭タル者ハ如何ナル裁判ヲ下スヘキカ民生官吏ノ資格ヲ以テ其父之ニ証印シ族戚ノ親組合ノ情誼ヲ以テ親屬組合之ヲ証言シ而シテ父ノ印ハ其子ノ能ク代用スヘキ者トナシ其印影ノ被告某甲ノ實印ヲササルニモ拘ハラズ猶能ク某甲ヲ以テ負債ノ本主ナリト判定スヘキカ是レ宮城上等裁判所ノ爲ス所ナリ天下ノ裁判ヲ皆此ノ如クナラシメハ即チ世ノ人子タル戸主豈能ク一家ノ財産ヲ保續スルニ違フランヤ其不當ナル亦言ヲ待タサルナリ又被告上告者及ヒ初審引合人等ハ被告上告第一號証ハ上告者ノ直筆ナリト強辨シ上告者ハ然ラズト云ヒシヲ以テ終審廳カ事實ノ認定ヲナサントセハ宜シク筆跡ノ如何ヲ審明セサルヘカテ然ルニ此ノ審明ナカリシハ審理不盡ニシテ即チ本按ノ裁判ヲ誤リタル一原因ト思考ストノ事

依テ辯明及判決ヲ與フルヲ左ノ如シ  
 辯明

上告者ニ於テ前ニ掲ケル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ凡ソ契約書ハ後日ノ証據トナル者ナシハ之レニ記名者自己ノ實印ヲ捺捺スヘキハ因ヨリ當然ナリト雖モ別ニ他ノ印判ヲ假用シタリト推定スヘキ材料アルキハ必シモ記名者自己ノ實印ヲ捺捺サルヲ以テ其契約ヲ承諾セサルモノト云フヘキモノニ非ラス抑本訴被告上告第一號証上告人名下ノ印影ハ上告人自己ノ印影ニアラスト雖モ亡父徳右衛門ノ實印ヲ捺捺シアリテ之ニ連署セル親類組合ノ四名ハ勿論組頭ノ資格ヲ以テ連署爲シタル徳右衛門ノ印判モ相違コレナク而シテ四名ノ内三名於テ被告友吉(上告)名下ノ印影ハ該時同人ノ印形暫時見出シ兼タル趣ヲ以テ被告(上告)本人ノ亡父徳右衛門ナル者ノ印形ヲ捺捺シタルヲ覺知罷在候云々ト証言シタルニ依テ之ヲ觀レハ該証言ハ洵トニ信ヲ置クニ足ルヘキモノナルヲ以テ上告本人ノ承諾上成立タルモノト推定スルヲ當然ナリトス如何トナレハ當時モシ上告本人ノ關リ知ラサルモノナリセハ上告人カ無二ノ尊長ニシテ而カモ上告人ノ財産ニヨリテ生活ヲ爲スヘキ實父徳右衛門ハ勿論通常上告人ヲ庇護スヘキ地位ナル親類組合ニ於テ之ニ連署シ且証言スヘキ道理ナキヲ以テナリ然ルチ上告人ハ種々ノ譬喩ヲ援來テ辨論スル廉アリト雖モ右徳右衛門等カ耐カク人情道理ニ背ケル人柄ナリシトノ憑據ヲ掲ケサル限ハ尋常平和ノ人物ト

見做シ推測ヲ下スチ相當ナリトス然ハ原裁判所カ右等ノ事由ヲ推究シタル上被上告第一號証ノ契約ハ上告者ニ於テ承認シタル者ト判定セシハ不當ノ裁判ニアラストス但右ノ外被上告第一號証筆跡ノ事ニ付申立ル廉アルモ本文ノ如ク論定スルキハ敢テ該件ノ要点ト認メサルコト付別ニ辨明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如クナルヲ以テ宮城上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス第九十八號

○金祿公債証書取戻一件東京上等裁判所裁判不法上告ノ判文(明治十四年十月廿四日上告) (明治十五年三月三十一日申渡)

東京府京橋區南鍋町二丁目  
四番地平民

上告人

千村與八

代言人

同府日本橋區蠣壳町二丁目  
十七番地平民 浦田治兵衛  
東京府荏原郡白金村五百五  
十六番地士族 早川一馬

被上告人

同府京橋區築地三丁目九番  
地平民

同

鏑木雲石

上告要領

抑モ本件ノ公債証書ハ被上告人早川一馬ノ代人タリシ間盛四郎ヨリ被上告人鏑木雲石ヘ賣渡セシ當時上告人ハ其賣買ノ中間ニ居リ專ラ之レカ紹介ヲ爲セシニ止マリ豈早川一馬ノ代人トナリ之レカ賣買ヲ爲セシニアラサルヤ知ルヘシ必竟上告人ハ被上告早川一馬ノ代人タリシ間盛四郎ノ依托ニ據リ被上告鏑木雲石ヘ本件ノ公債証書ヲ引渡シタル迄ニ止リ且其盛四郎カ被上告早川一馬ノ實印ヲ偽造セシヤ否ノ点ニ至リテハ素ヨリ上告人ノ關リ知ルヘキモノニアラサルナリ然ハ則被上告早川一馬ノ陳述ノ如ク本件ノ公債証書ハ間盛四郎ヘ對シ融通使用ヲ許セシ者ニアラスト又賣渡ス當時代人ト爲セシモノニアラストセハ其賣買ハ無効トナルモ爲メニ賣買ノコトヲ紹介セシ周旋人タル上告人カ間盛四郎ニ先立チ賣渡シ代金ヲ買主ニ對シ償却スヘキ道理アラシヤ何ントナレハ賣渡シ代金ハ既ニ被上告早川一馬ノ代人ナリト信認セシ間盛四郎ヘ引渡シ賣買ノ局ヲ結ヒ而シテ上告第二號証ヲ取置キタルモノナレハ上告人ハ該賣買ハ勿論真正ナルモノト確信セシ者ナリ然リ而シテ原裁判所モ(原告)被上告早川一馬ヲ云フト盛四郎ノ間ニ於テ右公債証書融通私用ヲ許スノ契約ハ曾テアラサリシ者ナルヲ盛四郎カ不正ノ所爲ニ因リ雲石ヘ轉賣スル事ニ至リシ者ト認定ス)トアリテ上告人ハ賣主ニアラスト見認メラレタルモノナラン然ハ則此認定ヲ適法

ノモノトセハ先以テ賣主則間盛四郎ヲシテ主タル義務者トセサル可カラズ而シテ盛四郎死亡トアラハ其相續人ヲシテ之レニ代ラシムヘキニ其償却ノ点ニ至リテハ却テ上告人ヲシテ其代金ヲ返償スヘシト言渡サレタルハ蓋シ賣主ト保証人トチ區別セサル不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス况ンヤ被上告早川一馬ハ間盛四郎ヨリ上告第一號第四號証ノ如ク本件ノ公債証書ニ付テハ業己ニ利足ヲモ領受シ居ルニ於テヨヤ由是觀之ハ被上告早川一馬ト間盛四郎トノ間ニアリテハ本件ノ公債証書ハ融通使用ヲ許セシヤ其明瞭ナリトス然ルヲ原裁判所ハ該証ニ對スル辨明ニ盛四郎義既ニ死亡シテ其如何ヲ審理スルヲ得サルヲ以テ右利子受授ノ主義果シテ何レニ在リシヤ今更之レヲ判定スルニ由ナシト言渡サレタリ然レモ凡証書ナルモノハ其授受セシ一方若シクハ双方共死去セシキト雖モ之レカ判斷ヲ爲スハ最モ容易ナルモノニシテ尙且ツ証書ヲ解釋スルハ契約者ノ生死ニ關係チ有スル者ニアラサリナリ加之初審裁判所カ盛四郎ニ對シ言渡サレタル公判文中(利子相拂フ約ナ以テ渡邊包三郎外四名(外四名ノ内一人ハ被上告早川一馬ナリ)ノ公債証書ヲ預リ)云々トアリテ盛四郎カ刑名タルヤ單ニ私印偽造ノ罪ニシテ公債証書ヲ使用セシヨハ各債主(被上告早川一馬等)ノ承諾セシ者ナリトノ裁判申渡シヲ以テ之レヲ執行セラレタルニアラスヤ况ンヤ上告第四號証ハ被上告早川一馬カ自ラ東京裁判所ヘ呈供セシモノナルニ於テオヤ然ハ則本件ノ公債証書ハ被上告早川一馬カ間盛四郎ニ對シ融通使用ヲ許セシモノナルヲ推知スルニ足レリトス然レモ暫ク是レカ使用ヲ許サス且該賣買ハ不正ノ所爲アリトスルモ蓋シ不正ノ所爲ヲ行フタルモノハ間盛四郎ニシテ上告人ハ其不正ノ所爲アルコトハ毫モ知ラサルナリ

且ツヤ保証人ナル者ハ本人ノ足ラサル處ヲ補フ則チ從タルノ義務コソ擔保スルモ豈本人ニ先立チ主タル義務ヲ負任スヘケンヤ然ルチ原裁判所ハ本人若シクハ其相續人ヲ問キ直チニ上告人ヨリ其代金ヲ償フヘシト言渡サレタルハ甚ダ不法ノ裁判ニシテ服從シ能ハサルナリ况ンヤ上告第一號第四號証ニ據ルキハ本件公債証書ハ被上告早川一馬ニ於テ融通私用ヲ許諾セシ証蹟アルニ於テオヤ前條ノ理由ナルニヨリ原裁判所ノ裁判ハ破毀セラレシコトヲ請願ス

辨明

抑モ被上告早川一馬カ原裁判所ヘ提供セシ第一號証ニ據レハ本件ノ金祿公債証書ハ明治十二年七月十七日ヲ以テ明治十二年十月三十日限り一馬ヨリ間盛四郎ヘ預ケタリト云フ迄ニシテ之レカ融通使用ヲ許シタル明文アルニアラス殊ニ盛四郎カ明治十三年七月九日東京裁判所檢事局ニ於テ爲シタル口供ニ「早川一馬千圓口ハ添書無之ニ付云々右印鑑ヲ手本トシテ其頃自分方ヘ屢々出入候青森縣下ノ者ノ由ニテ加藤賢吉ト唱ルモノヘ偽造ノ儀相頼云々右偽造ハ唯々使用許可狀可取持爲メ迄ノ目的ニ有之候處」云々ト之レアレハ當時一馬ハ設ヒ盛四郎ヨリ該公債証書ノ利子ヲ受取りタルモ融通使用ヲ許スノ目的ヲ以テ成立クル附托ノ契約ニ非ルコトハ右申述ニ於テ明カニ知ラルヘシ又被上告鏑木雲石カ原裁判所ヘ提供セシ第一號証ニ據レハ右公債証書ハ被上告早川一馬ノ名義ヲ以テ雲石ヘ賣渡シ上告者ハ其証人トシテ記名調印シアレモ上告者カ明治十二年十月七日東京裁判所檢事局ヘ差出シタル書面ニ「曾テ鏑木雲石ヨリ公債証書買入方ノ依頼ニ被及候次第モ有之



ニ付同人へ其旨相通候處幸ヒ望ミ有之趣ニテ自分宅ニ於テ賣却ノ約定相整「云々又明治十三年五月二十八日同局へ差出シタル書面ニモ「雇人宮代喜代吉へ托シ御府ノ御檢印ヲ相請候云々雲石ヨリ豫テ依頼モ有之ニ付右ノ趣申聞候所幸ヒ望ミ有之由ニテ代價等モ取究メ候ニ付」云々又鋪木雲石ヨリ明治十二年十月七日同局へ差出シタル書面ニモ右賣買ハ始終上告者ト談判ノ上上告者ヲ信用シ取引ナシタリト申述シ又明治十三年七月九日同盛四郎カ同局ニ於テ爲シタル口供ニ既ニ僞印モ所持致ス故遂ニ不得已竊賣致ス「ニ決心シ右印章ヲ以テ該公債証書賣渡等ニ可相用紙取持ヒ與入」(上告)へ相渡シ其末自分不相心得「云々トアリ以上ノ申立ニ據レハ右公債証書ノ賣買ハ其實上告者ト雲石トノ間ニ於テ結了シ當時盛四郎ハ只タ其一馬カ印影ヲ僞造シタル迄ニテ其賣買ニハ毫モ關與セサリシモノタル「亦明カニ知ラルヘシ然レハ盛四郎カ一馬ノ印影ヲ僞造シ上告者ヲ欺キタル事柄ト此賣買トハ區別アル「ニシテ之レヲ詳言スレハ其盛四郎カ上告者ヲ欺キタル所爲ハ盛四郎ト上告者トノ間ニ止マリ其實買ヲ爲シタルハ上告者ト雲石トノ關係ナリトス殊ニ右公債証書タル襍ニ盛四郎ヨリ上告者へ貸金ノ抵當ニ受取り當時所有者ノ委任狀ナキヨリ之レカ受戻シヨ盛四郎へ督促ノ末終ニ雲石へ賣却スル「ニ至リシト云フニアラスヤ然レハ當時上告者於テモ該抵當物ハ正シキモノト認メサルヨリ之レカ受戻シヲ督促セシモノナルヘシ然ル「一朝所有者ノ賣渡証書ヲ盛四郎於テ所持シ來リタルトテ其抵當ニ差入レタル手續ノ完全ナラサル兼并盛四郎カ本人ノ代理タルノ証ナキ等ヲ顧シハ容易ニ信ヲ措キカタクモノナルニ付如此場合ニ於テハ宜シ本人ニ就キ之レカ實否ヲ取調ヘ后日買

主ニ對シ不都合ノ生セサル様イタスヘキハ賣主タル者ノ義務ナルニ絶テ是等ノ手續ヲ盡サス直チニ其賣渡証書ヲ以テ雲石へ賣却セシハ全ク上告者カ不注意ニシテ該公債証書ヲ雲石ヨリ一馬へ返戻セサルヲ得サルニ至ラシムルモ必竟上告者カ其不注意ノ結果ナリト云ハサルヲ得ス然レハ該公債証書ヲ雲石ヨリ一馬へ返辨スル場合ニ於テハ固ヨリ其代金ハ上告者ニ於テ雲石へ返辨セサルヘカラサル筋ナリトス故ニ東京上等裁判所ニ於テ「右公債証書融通使用ヲ許スノ契約ハ曾テアラサリシ云々雲石カ千村與入」(上告)へ渡シタル右代金悉皆速ニ與入」(上告)ヨリ雲石へ返償スヘキ事「ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニアラサルナリ

判決

右辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年八月二十七日東京上等裁判所ニ於テ本訴公債証書取戻一件ニ對シ申渡シタル終決裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第九十九號

○判文(明治十四年十一月十二日上告)  
 (明治十五年三月三十一日申渡)

上告者

宮城縣陸前國宮城郡仙台區  
 元鍛冶町十六番地士族  
 鈴木 木 節 藏

東京府日本橋區吳服町二十  
 九番地平民

右代言人

三五六  
松 井 澤 平  
同縣同國志田郡澁井村八番  
地平民

被上告者

澁 谷 米 吉

田地買戻一件宮城上等裁判所ノ裁判ヲ不法トスル上告ノ要領左ノ如シ

第一 凡ソ木件ノ如キ訴訟ニ向テ事實ノ推測ヲ下サントスル場合ニ於テハ即チ其原因ヨリ上告第一號証ノ成立ヲ詳悉シ尙ホ其爾後ノ行為ヲモ推究セサルヲ得ス否ラサレハ有形ノ証書ニ對シ容易ク之ヲ取捨スルノ理由ヲ發見シ得可ラス然ルニ原裁判所ニ証書ノ成立ヲ詳悉セス又爾後ノ行為ヲモ推究セス(田地ノ買戻シハ被告(上告者)第二號証明治十二年十一月十五日ニ於テ原告(被上告)以下同)カ其權利ヲ失シタルヤ否ヤニ付原被告兩造ノ陳辨ハ無用ノ事ニシテ亦之ヲ判明スルハ無益ノ事ナリ云々)トセラレタルハ疎漏ノ判決ト謂リサルヲ得ス

第二 堪能者カ双方正實ノ意ヲ以テ結ヒタル契約ハ其結ヒタル双方ノ間法律ニ等キ効驗アルモノトス抑モ本件所爭ノ主眼タル契約ニ對スル權義ノ如キハ約束ノ時ニ生シテ又其時ニ畢ル單純ナル契約ニシテ乃チ上告第一號証ノ如キハ適法無欠ノ確証ナリ然ルニ原裁判所カ這ノ証書ヲ擯斥セラレタル根據ハ蓋シ左ノ三項ニ外ナラス

其一明治十三年四月二十四日第一國立銀行古川出張所ニ於テ在京ノ被上告人ニ對スル金二百圓ノ爲替券ヲ本行ヘ充テ發シタリトノ事

其二買戻ニ付被上告人ハ憂苦ノ余リ長嶺利明ヲ伴ヒ遠ク出京シテ其權利ノ保全ヲ務メタル場合僅々タル小作米ト此權利トヲ交換スヘキ理由ナシトノ事

其三長嶺利明カ証言ヲ是認セラレシ事

第一爲換金ヲ發シタル故ヲ以テ既往ニ係ル郵便モ亦金圓送達スヘシトノ書信也ト看認ム可ラス何トナレハ被上告人ニ其証憑アルヘキ筈ナル而已歟何人ヨリ何人ニ送達シタルヤ未ダ識別ス可ラス仮設ヒ正シク縣地ヨリ發シタリト視認ルモ既ニ契約ノ後ニアリ第二尙モ無証ニシテ有形適實ノ契約ヲ打消スヘキモノニ非ス又小作米ハ百有余金ニ相當シ買受代金ノ半額ニ該レハ豈僅少ナリト謂テ得ヘケンヤ第三引合人長嶺利明ハ本件訴訟ノ煽動者ニシテ當初ヨリ旅費日當ヲ領シ又謝金ヲ得テ被上告人ヲ補翼スル者ナリ况ヤ終始反對ノ陳述ヲ爲スカ如キ者ニ於ケルチヤ利明ハ偶々上告人亡妻ノ姉婿ナリシト言フモ彼カ自陳スル如ク或ル詞訟ノ原被告ニシテ當時既ニ親戚ノ情誼ハ斷絶シタル者ナリ然ルニ原裁判所ハ是等數項ノ理由アルヲモ顧ミス(該第一號証(即上告)第一號)ハ其買戻シヲ行フヘキ金員ノ着京セサル内云々(中)仮リニ授受シタルモノナリト信認シタリ云々)ト裁決セラレシハ審理不盡ト謂ワサルヲ得ス

第三 原裁判所ハ小作米十三石六斗ヲ以テ僅々ナリトシ買戻權ト交換スヘキ理由ナシト判決セラレタルニ非スヤ然ラハ其買戻權ハ小作米ニ幾層ノ利益アリト思料セラレタルヤ明ケシ果シテ然ラハ之ヲ被上告人カ財産ト爲シ身代限ノ場合財產點數帳ニ登記スヘキハ至當ナルニ(凡ソ買戻シノ契約タルヤ米必ノ條件ニシテ云々(中)未ダ買戻シヲ爲サル)

田地ヲ己レノ財産内ニ調査セサリシハ當然ノ事ナリト裁判セラレシハ法律ノ許サ、ル  
不法ノ裁判ナリトノ事

依テ辨明并ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

第一條

上告第一項ノ趣旨ヲ審按スルニ上告第二號証明明治十二年九月二十六日ヲ以テ被上告者  
カ付與セシ借用証書ノ期限ヲ經過シタル後顯ニ上告者ハ明治十四年八月二十五日原裁判  
所ノ審問ニ對シタル如ク明治十三年三月三十日ニ至リ明治十二年度ノ散石米ヲ受取タル  
後賣戻スヘキニ承諾シタリト明言シタルハ上告第二號証ノ期限ニ遡ツテ其事ニ論及スル  
ハ抑モ徒勞ニ屬セン爾矣况ヤ本訴ノ要點ハ上告第一號証ノ効力如何ニ存スルヲ乎故ニ原  
裁判所ニ於テ(田地買戻ハ被告)上告者(以下同)第二號証明明治十二年十一月十五日ニ於テ原告(被  
告以下)カ其權利ヲ失シタルヤ否ヤニ付原被兩造ノ陳辨ハ無用ノ事ニシテ亦之ヲ判明スル  
ハ無益ノ事ナリト言渡シタルハ當然ノ理解ニシテ決シテ疎漏ト謂フヲ得ス

第二條

上告第二項ノ趣旨ヲ審按スルニ上告者カ論難スル處分テ三項トス第一明治十三年四月二  
十四日第一國立銀行古川出張所ヨリ爲換ヲ發シタルハ被上告人カ買戻シニ關スル金額ナ  
ルヲ知ルヘシ看ヨ原裁判所ノ判文ニ(原告カ申立ニ依リ第一國立銀行古川出張所ヲ取調  
クルニ云々)トアリ又其爲替發遣ノ日時ハ上告第一號証日附ノ後ニアリト云ト雖モ其間

總カ二日ニ過キス特トニ爲換金發着ノ場所ハ九十里程ヲ懸隔スルハ上告第一號証ノ受授  
ヲ斷スルノ妨害ト爲ル可キ理由ナキモノトス第二夫レ有形無形ヲ間ハス總テ証據ナルモ  
ノハ事實ヨリ生スル結果ナリ故ニ其實ニシテ有ル可ラサル事柄ナルヘキ手續キノ明確  
ナルニ至テハ其証據モ從テ無効ニ歸スヘキハ固不俟論矣ナリ又小作米ハ百余金ニ該ルモ  
一年ノ利益タリ之ヲ永世所有ノ實利ニ比較セハ同日ノ論ニ非ス小作米ヲ指シテ僅少ト云  
フ適切ト謂ウヘシ第三他ニ憑ルヘキノ緣由若クハ証據無クシテ單ニ証人ノ証言ヲ偏信セ  
ハ其採擇ハ固ヨリ取ルニ足ラスト然レモ本案引合人長嶺利明ノ証言ヲ參酌シタルハ則  
チ他ニ憑ルヘキ証據アルカ爲メナリ看ヨ原裁判所ノ判文ニ(假令此利明カ証言ハ被告ニ  
對シ十分ナル証言ノ効ナシトスルモ云々) (中)被告カ該第一號証 (上告第一號証) 成立ヲ辨解スル  
事實ハ信用シ難シ云々ト説明シタルニ非スヤ原裁判所ハ如何審理ヲ盡シタル後(該第一  
號証ハ其買戻シヲ行フヘキ金員ノ着京セサル内被告ノ賣戻ヲ行フニ付テノ權利ヲ保護シ  
原告ノ買戻シヲ行ニ付テノ義務即チ金員拂入レノ履行ヲ檢束セン爲メ假リニ授受シタル  
者ナリト信認シタリ)ト言渡シタルハ事理適當ノ裁判ニシテ毫モ間然ナキモノトス

第三條

上告第三項ノ要旨ヲ審按スルニ被上告第一號証ハ本訴ノ田地買戻ヲ得ヘキ証左ニシテ固  
ヨリ一部ノ財産トス然レモ明治十三年十月中相澤甚七ヨリ出訴セラレ身代限ノ處分ヲ受  
ケタル場合之ヲ點數帳ニ登記セサルモノハ被上告者カ買戻權ヲ拋棄シタルニ非ス本件紛  
議ニ係ル所以ヲ言說シ債主ノ許諾ヲ受テ調査ノ點數ニ加エサリシ顛末ハ載セテ原裁判所

ノ口供(明治十四年九月十七日審問)ニ明カナリ然然ルニ原裁判所ニ於テ未必ノ條件ナルヲ以テ未タ買戻ヲ爲サ、ル田地ヲ己レノ財産内ニ調査セサリシハ當然ノ事ナリト言渡シタルハ穩當ヲ失スルモノト雖モ要スルコトヲ以テ本案ニ影響ヲ來タス事柄ニアラザレハ破毀ノ材料ト爲スニ足ラストシ

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ宮城上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ者也

司法省藏版

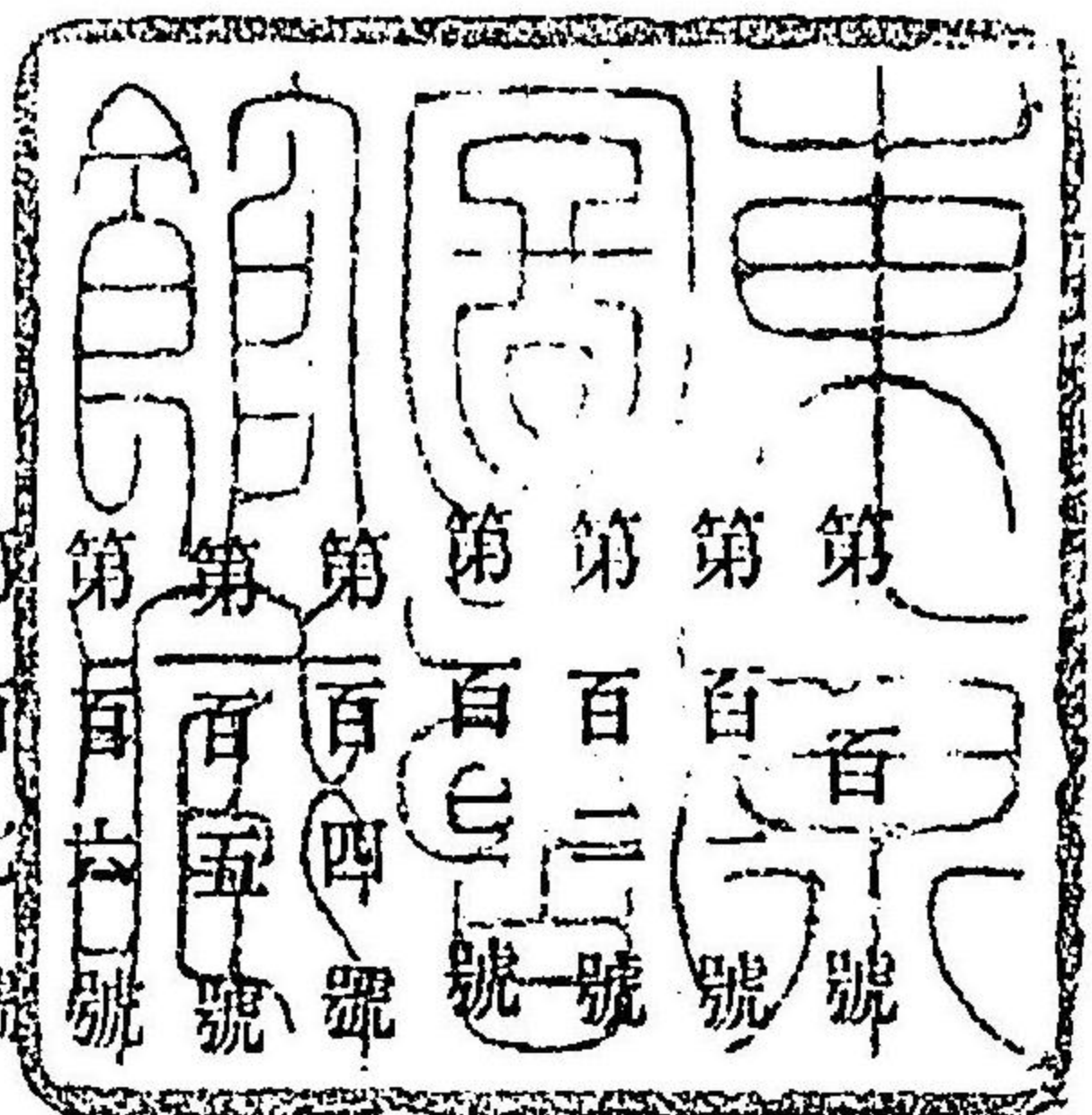
大審院民事判決錄

明治十六年十二月印行

CZ  
2114  
01

大審院民事判決錄

自明治十五年四月  
至明治十五年五月



- 第百一號
- 第百二號
- 第百三號
- 第百四號
- 第百五號
- 第百六號
- 第百七號
- 第百八號
- 第百九號
- 第百十號
- 第百十一號
- 第百十二號
- 第百十三號
- 第百十四號

- 共有墓地境界爭論一件
- 返地約定履行一件
- 共有野山立木分配拒障反對一件
- 証據金取戻及ヒ立替金請求并株切手取戻一件
- 所有地差違一件
- 讓渡地所受戻一件
- 管財權解放及ヒ精算要求一件
- 共有地々券書換請求一件
- 田地讓渡拒障一件
- 前拂金取戻并償金要求一件
- 通路障解除一件
- 地券申受差違ノ極米催促一件
- 地券帳簿名前引直シ一件
- 借用金返濟証書取戻一件
- 地券書換ヲ求ル一件

- 一丁
- 四丁
- 八丁
- 一一丁
- 一一丁
- 一四丁
- 一八丁
- 二五丁
- 三二丁
- 四〇丁
- 四三丁
- 五九丁
- 七四丁
- 八四丁
- 八七丁
- 九二丁
- 一一

第百十五號	宅地及畑取戻一件	一〇五丁
第百十六號	入會山所有爭論一件	一〇七丁
第百十七號	秣場境界一件	一一五丁
第百十八號	絶家再興ヲ拒ムノ一件	一二五丁
第百十九號	共有山地爭論一件	一二八丁
第百二十號	貸金并ニ預品催促一件	一三八丁
第百廿一號	約定不履行ノ詞訟一件	一四一丁
第百廿二號	新瀨米商會所處分不服一件	一四五丁
第百廿三號	質地請戻裁判取消ヲ求ムル一件	一五二丁
第百廿四號	貸地取戻ノ一件	一五四丁
第百廿五號	村持質地々引帳名義書替一件	一六二丁
第百廿六號	右同斷	一六八丁
第百廿七號	右同斷	一七三丁
第百廿八號	抵當品引戻一件	一七八丁
第百廿九號	白米賣買一件	一八二丁
第百三十號	買受耕地不渡一件	一八六丁
第百三十一號	記録板文字改正請求一件	一九三丁
第百三十二號	貸金催促退訴一件	二〇〇丁

二

第百三十三號	買請地受渡請求一件	二〇五丁
第百三十四號	質地受戻一件	二一一丁
第百三十五號	右同斷	二一八丁
第百三十六號	歟先所有地取戻并公簿改正ヲ要ムル一件	二二二丁
第百三十七號	差押金請求一件	二二七丁
第百三十八號	地券名義書換請求ノ詞訟一件	二三四丁
第百三十九號	誤受地券書換并質地受戻請求一件	二三九丁
第百四十號	地所公賣處分不服上告却下一件	二四三丁
策百四十一號	反別區分故障解除一件	全丁
第百四十二號	金祿公債証書取戻一件	二四八丁
第百四十三號	質地代金催促一件	二五〇丁
第百四十四號	耕地取戻一件	二五三丁
第百四十五號	貸金催促一件	二五五丁
第百四十六號	小作米麥催促訴訟一件	二五九丁
第百四十七號	預メ証書取戻訴訟一件	二六一丁
第百四十八號	公債証書取戻訴訟一件	二六三丁
第百四十九號	入會秣場地券狀改正一件	二六八丁
第百五十號	劫敷夏草苻採爭論一件	二七三丁

三

第百五十一號	預夕地取戻一件	二八〇丁
第百五十二號	質地取戻ノ訴訟一件	二八五丁
第百五十三號	地所取戻借用金返濟一件	二八八丁
第百五十四號	渡船或ハ橋梁設置拒障一件	二九一丁
第百五十五號	取込米金割戻精算譯立一件	二九三丁
第百五十六號	地券書換ノ詞訟一件	二九八丁
第百五十七號	田地取戻一件	三〇一丁
第百五十八號	小作米淹滞并田地引揚一件	三〇二丁
第百五十九號	不正賣買ノ地所取戻ヲ求ムル一件	三〇五丁
第百六十號	右同斷	三一二丁
第百六十一號	地所取戻詞訟一件	三一八丁
第百六十二號	地券名義引直請求訴訟一件	三二二丁
第百六十三號	戸主回復一件	三二四丁
第百六十四號	鑪床敷地所々有爭論一件	三三〇丁
第百六十五號	山地所用人員不當一件	三三四丁
第百六十六號	貸米催促一件	三三九丁
第百六十七號	貸庫受戻一件	三四一丁
第百六十八號	稻作植付拒障損害要償一件	三四八丁

四

第百六十九號	右同斷	三五四丁
第百七十號	右同斷	三五九丁
第百七十一號	右同斷	三六五丁
第百七十二號	右同斷	三七〇丁
第百七十三號	右同斷	三七六丁
第百七十四號	右同斷	三八一丁
第百七十五號	損害要償一件	三八七丁
第百七十六號	返地約定履行一件	三九〇丁
第百七十七號	家督相續一件	三九六丁
第百七十八號	積送米引渡一件	三九八丁
第百七十九號	質地受戻詞訟一件	四〇四丁
第百八十號	分課金請求ノ訴訟一件	四〇六丁
第百八十一號	建家公証取消ノ詞訟一件	四〇八丁
第百八十二號	十ヶ年期賣渡地所期明買戻一件	四一二丁
第百八十三號	右同斷	四一七丁
第百八十四號	右同斷	四二四丁
第百八十五號	右同斷	四三〇丁
第百八十六號	右同斷	四三七丁

第百八十七號	質地受戻一件	四四四丁
第百八十八號	貸附田畑取戻一件	四四六丁
第百八十九號	地租改正費拂過金取戻上告却下一件	四四九丁
第百九十號	質地受戻一件	全丁
第百九十一號	店明渡及店賃滞一件	四五三丁
第百九十二號	地券帳簿名前引直シノ詞訟一件	四五九丁
第百九十三號	貸立催促一件	四六三丁
第百九十四號	杉木所有争論一件	四六八丁
第百九十五號	渡金取戻一件	四七一丁

六

正誤

二丁	十六丁目	失ハ矢
三丁	十三丁目	裁ノ上總ヲ脱ス
六丁	一行目	裁ノ下判ヲ脱ス
七丁	十一行目	カノ上資ヲ脱ス
八丁	十七行目	讓ハ議
一〇丁	六行目	二ハ三
一一丁	三行目	承認ハ承諾
一四丁	十二行目	左シハ左ノ
一七丁	十四行目	論ハ即ノ下へ入ル
二二丁	一行目	也ハナリ
全丁	六行目	カノ下カハ行
全丁	十一行目	ハ金ハ顛倒



全丁	十五行目	今 <sup>○</sup> ア <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 今 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup>
全丁	十二行目	五 <sup>○</sup> 告 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 五 <sup>○</sup> 號 <sup>○</sup>
三二丁	一行目	受 <sup>○</sup> ル <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 受 <sup>○</sup> ル <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup>
三三丁	十一行目	共 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 其 <sup>○</sup>
四一丁	二行目	面 <sup>○</sup> 居 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 顛 <sup>○</sup> 倒 <sup>○</sup>
四七丁	三行目	ソ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 術 <sup>○</sup>
四八丁	一行目	蓋 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 盡 <sup>○</sup>
五五丁	四行目	古 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 右 <sup>○</sup>
八〇丁	十一行目	ヘ <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 下 <sup>○</sup> キ <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス
一〇三丁	十八行目	之 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 之 <sup>○</sup> レ <sup>○</sup>
一三四丁	六行目	ア <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 下 <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> チ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス
一四二丁	六行目	西 <sup>○</sup> 村 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 上 <sup>○</sup> 同 <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス
一四八丁	九行目	押 <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 顛 <sup>○</sup> 倒 <sup>○</sup>

一六六丁	十七行目	政 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 改 <sup>○</sup>
一七四丁	六行目	シ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup>
一七七丁	十三行目	モ <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 下 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> チ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス
一八七丁	二行目	証 <sup>○</sup> 証 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 証 <sup>○</sup> 書 <sup>○</sup>
一九一丁	十六行目	右 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 古 <sup>○</sup>
二一〇丁	二行目	ハ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> ヘ <sup>○</sup>
二一七丁	十二行目	証 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 訴 <sup>○</sup>
全丁	十三行目	ト <sup>○</sup> ス <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 顛 <sup>○</sup> 倒 <sup>○</sup>
二二七丁	二行目	類 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 項 <sup>○</sup>
全丁	十六行目	五 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 術 <sup>○</sup>
三四九丁	十四行目	セ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 術 <sup>○</sup>
二五三丁	十三行目	第 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 下 <sup>○</sup> 百 <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス
二五六丁	三行目	牧 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 上 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 上 <sup>○</sup> 告 <sup>○</sup> 者 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 術 <sup>○</sup>

二六九丁	一行目	上 <sup>○</sup> 告 <sup>○</sup> 人 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 衍
三一四丁	十六行目	住 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 仕 <sup>○</sup>
三一六丁	一行目	威 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 戚 <sup>○</sup>
三四四丁	十二行目	割 <sup>○</sup> 書 <sup>○</sup> 本 <sup>○</sup> 年 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 本 <sup>○</sup> 年 <sup>○</sup>
三六四行	十三行目	セ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> ヒ <sup>○</sup>
三八〇丁	十行目	ラ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> テ <sup>○</sup>
三九九丁	九行目	一 <sup>○</sup> 二 <sup>○</sup> 號 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 一 <sup>○</sup> 二 <sup>○</sup> 五 <sup>○</sup> 號 <sup>○</sup>
四〇九丁	十一行目	役 <sup>○</sup> 所 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 役 <sup>○</sup> 所 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup>
四三四丁	六行目	得 <sup>○</sup> レ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> ナ <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 下 <sup>○</sup> リ <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス
四四三丁	八行目	ナ <sup>○</sup> リ <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> ナ <sup>○</sup> ク <sup>○</sup>
四五四丁	十一行目	彼 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 上 <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス
丁	十五行目	彼 <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 下 <sup>○</sup> 上 <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス

四五六丁	十五行目	談 <sup>○</sup> ハ <sup>○</sup> 該 <sup>○</sup>
四六二丁	七行目	ト <sup>○</sup> ノ <sup>○</sup> 下 <sup>○</sup> ヲ <sup>○</sup> 脱 <sup>○</sup> ス

大審院民事判決録 自明治十五年四月  
至明治十五年五月  
第百號

○判文(明治十五年二月十日上告)  
(明治十五年四月四日申渡)

上告人

埼玉縣武藏國兒玉郡金屋村  
三十番地寄留士族  
矢 島 喜 武  
埼玉縣武藏國兒玉郡金屋村  
平民

被上告人

倉 林 清 八  
外四十三名

共有墓地境界爭論、件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ主点左ノ如シ  
第一 戸長ノ保証ヲ採用シテ上告人カ樹木切株ノ証據ヲ採用セザリシハ不法ノ裁判ナリ  
トノコ

第二 論所ニ桑樹ノ有無ハ本案ノ要点ナルニ何等ノ判決ヲモナサザリシハ不法ノ裁判ナ  
リトノコ

第三 判文ニ記載セシ墓地ノ反別ニ違筭アリ又被上告人カ案内線内ノ反別ハ三斜帳地引  
帳等ノ反別ニ相合サル上ハ反別ノ多少ハ裁判ノ憑據ト爲スヲ得ス然ルニ之レヲ憑據ト  
セシハ不法ノ裁判ナリトノコ

辨明

第一條

上告者カ終審裁判所ニ於テノ所論ハ論地ノ切株ト論外地ノ切株即明治九年一月中上告者ノ伐採シタル樹木ノ切株トハ同時ノ切株ニ係ル事一目瞭然タリト辨論セシモノニテ論外地ニハ他ニ切株ナシト云ヒシモノニ非ス然ルチ上告第四號圖ニ登記シタルノ外數多ノ切株アリトテ此切株ハ天龍寺カ占有中樹木ヲ擅伐シタル古株ナレハ之ヲ以テ上告者ノ所論ヲ破リ得ル謂レナキハ勿論戸長ノ保証ト稱スルモノモ漠然タル書面ニシテ伐採ニ新古ノ別ナシト斷言セシニアラサルチ以テ上告第六號証ナル柳職カ新古ノ區別迄モ保証セシ証據ヲ動カシ得ヘキノ理ナシ況ヤ戸長倉林市三郎ハ被上告倉林清八カ親戚ニテ右市三郎ノ保証ハ原被告間ニ効力ヲ有セス然ルニ終審廳カ戸長ノ保証ニヨリ上告者ノ辨論ヲ採ラサリシハ不法ノ裁判ナリト是レ上告第一條ノ趣意ナリトス然ルニ上告代人ト同代人カ控訴廳ニ於テ明治十三年三月十二日ノ口供ニ「論地ノ切株跡ハ原告所有ノ木ナリシ事ハ原告第二號証御拂下ノ木數ト原告所有地ニアル伐採并ニ論外地ノ切株ヲ合シ適當スルチ以テ証スルニ足レリ」トアリ是ニ於テ終審廳ハ原被告及ヒ戸長立會ノ上切株取調ヲ命セシ處其結果ハ被上告第六號ノ如ク上告四號圖ノ株數ノ外數多ノ切株ヲ存シ或ハ切株ヲ掘出セシ痕跡ヲ發見セシ趣ナリ又其戸長保証書ニ依レハ「失島喜平次(上告)右調書ニ調印スヘキヲ俄ニ出京セシ旨件要ヨリ申出シニヨリ喜平次調印ナシト雖モ控訴人(喜平)取調ノ外猶數多現存セルヲ目撃セシ」トアリ依テ終審裁判所ガ樹木伐採ノ形跡ヲ以テ木訴地所

經界ノ確証トナシ難シト判決セシハ至當ノ判決ナリトス  
 上告者ニ於テ右ハ漠然ノ書面ニシテ切株新古ノ區別ナシト云ヒ或ハ戸長倉林市三郎ハ被上告倉林清八カ親戚ナルヲ以テ保証ノ効力ナシト云ト雖モ戸長ノ保証書ハ事理分明ニシテ決シテ漠然ニアラス且右書面ハ固ヨリ切株新古ノ爭論ニヨリ成立ナシモノニアラサルヲハ上文既ニ弁明セシカ如クナリトス又被上告四拾四名ノ内壹人カ戸長ノ親戚ナリト云テ以テ直チニ不正ノ書ト爲スヘキ理ナキヲ以テ終審廳之ヲ採用セシハ正當ノ裁判ナリトス

第二條

控訴代人カ論所ニ桑樹アルハ明治九年控訴人カ培栽セシモノナリトノ申立ニ對シ控訴被告代人志摩万次郎カ先代言人ニ於テ桑樹ナシトノ申立ハ錯誤ニシテ桑樹ハアリト申立タリ是レ本案ノ直曲ニ影響ナキ事柄ナルチ以テ判文上別ニ說明ヲナサバトモノトス如何トナレハ仮令上告者カ明治九年桑樹ヲ培栽セシニモセヨ其地所ハ上告者カ拂下ケテ得シ範圍外タル証據アル上ハ其証據ニ由リ經界ヲ正スコソ當然ナルヲ以テナリ裁判書ニハ何等ノ辨論ト雖モ一々之ヲ說明セサルヘカフサルモノニアラサルチ以テ說明ナキチ不法ト云フヲ得ス

第三條

終審裁判ノ主眼ハ村役場ノ公簿即三斜帳(被上告)及ヒ地引帳(被上告)ニ上告者カ拂下ケテ得タル土地ハ七反七畝廿步ニシテ共有地ハ二反壹畝廿壹步トアルヲ基本トシ被上告